



ところざわ倶楽部

のあゆみ



創立 10 周年記念誌の発行にあたって 会長 稲村洋二

ところざわ倶楽部の10年、そして次の10年

今期はところざわ倶楽部(以下倶楽部と略称)創立10周年に当たります。創立は 2007 年 11 月です。今年10周年記念事業の一つとして「生涯学習シンポジウム」を5月に開催しましたが、その時パネリストとして招いた細山俊男氏が発足当時のことを広報紙「広場」の1月号、5月号に述べておられます。



倶楽部の発足は市民大学のカリキュラムを2年制にする検討を市民大学10期生の時からはじめられ、2007 年市民大学14期の2年次と15期生の1年次を並行して進め、同時に「市民大学修了後のネットワークづくり検討委員会」での議論を経て発足したとのことでした。

この経緯から、倶楽部が目指すところは「生涯学習の理念のもと豊かな市民社会の実現をめざし、地域に貢献することを目的とする」であり、会則第3条には活動として ①市民大学の学びを生かす ②学習成果を地域に生かす ③ 会員相互の親睦と情報交換 ④市民大学講師、特別会員等とのネットワークづ

くりと記載されています。

10周年という区切りは倶楽部の発足に係わられた関係者の理念を共有し、思いを馳せる良い機会だと思います。発足以来の会員数は 2007 年の 128 名から 2016 年の 285 名まで右肩上がりに増え、会の裾野が広がったと同時に年齢の幅が大きくなりました。しかしながら、2017 年は初めて減少し 258 名となりました。入会者が前年度より 36 名増えましたが退会者が 63 名にものぼりました。

退会者が増えた原因は2つあると考えています。

1つは会員の年齢です。創立以来10年ということは会員の年齢が10歳上がったということで、倶楽部での活動が年齢的にむずかしくなり退会されたことです。

2つ目はこれまで活動してきた複数のサークルが、サークル自体を解散してしまうと同時にサークル構成メンバーも倶楽部を退会してしまったことです。サークル解散にはサークルそれぞれに理由があり、倶楽部が抱える運営上の問題点を内包しています。

創立以来倶楽部が抱える問題として「会員の資格」がありました。この問題について9期の「あり方検討委員会」で議論をし、一般市民へ門戸を開くと同時にサークル会員は倶楽部会員であることとの結論を昨年11月の総会に諮り承認を得ました。この会則の改定によりサークルで活動している一般会員も倶楽部会員になりサークル活動を続けることができるようになりました。

ところざわ倶楽部とは何か？を考えると、設立当初の“生涯楽しく学び続けて、仲間をつくり、地域貢献もしたい”との理念を共有し実践することではないかと思います。理念を共有できる仲間と集い、活動する場がところざわ倶楽部です。

先日開催された「生涯学習シンポジウム」で講師の早稲田大学教授の加瀬裕子先生から“ところざわ倶楽部はもう一段階上を目指すべきだ”との激励をいただきました。先生はそのとき具体的に何を指すのかは言及されませんでした。私は一段階上というのは“地域社会貢献”がその一つではないかと思っています。

ところざわ倶楽部の次の10年は、倶楽部の活動を市民の中に広げ、より地域とのつながりを強くし会員の皆様が良き市民として生きいきと楽しく活動が続けられる“場”であり続けてほしいと思います。

所沢市教育委員会 内藤隆行教育長からの祝辞



ところざわ俱樂部が創立10周年を迎え、ここに記念誌が発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

「所沢市民大学」の修了生が立ち上げた「ところざわ俱樂部」は、128名の会員でスタートし、10年という歳月を経て、現在は200名を超えるほど大きく発展いたしました。このことについて改めて感服するとともに、市民大学を運営する所沢市教育委員会といたしましても、たいへん嬉しく存じます。

創立10周年を記念した音楽朗読劇におきましては、会場となったミューズ中ホールは満席となり、出演した市内の小中学生の名演技もあって、多くの観衆を魅了しました。本事業が成功裡に終わりましたのは、関係者の皆様のたいへんなご苦労と熱意があったからこそであると存じます。

生涯学習は、社会教育、学校教育、個人の自学自習など、人々が生涯にわたって取り組む学習です。あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かせる社会の実現を目指すことは、生涯学習の理念です。こうした理念のもと、貴ところざわ俱樂部の皆様におかれましては、生涯学習推進に向けて、学習講座等の開催や、生涯学習ボランティア活動など、様々な学習機会の提供、支援に取り組んでおられます。改めて、生涯学習社会の実現に向けたご尽力に対し、感謝申し上げます。

結びにあたりまして、ところざわ俱樂部のますますのご発展と、皆様方のご健勝をお祈り申し上げます、祝辞といたします。

ところざわ俱樂部「特別会員」からの祝辞

大堀 聡先生(早稲田大学理工学部講師)



—新しい発見を求めて—

ところざわ俱樂部創立 10 周年
おめでとうございます。

2007 年の 14 期生から2年次の学びが始まりました。多くの受講生が講義後のグループワークだけでは、消化不良だと感じたからです。講義や講演を聞くだけでは、知識は増えても、新しい発見や発想は生まれません。自己満足で終わってしまい、知識も浅く、地域に還元することはできないでしょう。2年次の学びは、興味のあるテーマに分かれ、学び、資料を集め、議論を重ね、まとめ、他のグループの皆の前でプレゼンをするという仕組みです。知識を自分のものにするには、殻を捨て、新たな挑戦が必要です。過去の肩書きは役に立ちません。今からでも遅くない。まだまだやれます。OB 会も利用しよう。

藤田 明先生(聖学院大学名誉教授)



ところざわ俱樂部創立 10 周年
おめでとうございます。

常に定員を超える希望者で活気あふれる市民大学が、更に教養を深める目的で、ところざわ俱樂部が創設されてからもう 10 年たったことは、大変素晴らしいことと心からお祝い申し上げます。

ところで、他地区の話になりますが、大学と市が共催して行った公開講座がきっかけとなって 25 年前に結成されたコーラスグループのメンバー(80 名)の中で、生涯を閉じる直前まで仲間に温かく見守られながら歌い続けていた人達のことを思い出し、ところざわ俱樂部もお互いに支え合い乍ら教養豊かな老後が楽しめる様な素晴らしい会であり続けて頂きたいと願っております。

目 次

第 1 章 ところざわ倶楽部のあゆみ

1. ところざわ倶楽部の活動と組織	1
2. ところざわ倶楽部の活動年表	2
3. ところざわ倶楽部運営に対する会員の声	5
4. ところざわ倶楽部の主要事業	6
5. ところざわ倶楽部の広報活動	7
6. サークルと活動領域	8
7. 特別会員の紹介	9

第 2 章 ところざわ倶楽部創立 10 周年記念事業

1. 「生涯学習シンポジウム」の開催	10
2. 音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」公演の主催	12

第 3 章 サークルのあゆみ

1. 地域の自然を考える会	14
2. 地球環境に学ぶサークル	16
3. 所沢の自然と農業サークル	18
4. アジア研究会	20
5. 食を通して所沢を知る会	22
6. 傍聴席	24
7. 活いきシニア福祉の会	26
8. 所沢シニア世代地域デビュー支援の会	28
9. 脳活サークル	30
10. 北欧の会	32
11. 葵の会	34
12. 楽悠クラブ	36
13. ドラマティック・カンパニー	38
14. 懐かしの映画・鑑賞会	40
15. 野老澤の歴史をたのしむ会	42
16. 民話の会	44
17. 歴史散策クラブ	46

ところざわ倶楽部の活動と組織

【目的】

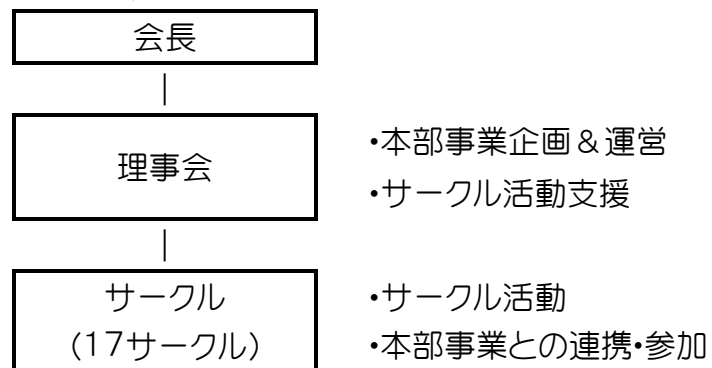
本会は、原則として市民大学を修了した者がところざわ倶楽部を構成し、生涯学習の理念のもと、豊かな市民社会の実現をめざし、地域に貢献することを目的とする。

【活動】

本会は、目的を達成するため、次の倶楽部の活動とサークル活動を行う。

1. 市民大学の学びを生かす
2. 学習成果を地域に生かす
3. 会員相互の親睦と情報交換
4. 市民大学講師、特別会員等とのネットワークづくり
5. その他、目的実現のために必要な活動

【組織・運営】



役員	会長	理事会で互選、本会を代表し会務を統括	1名
	副会長	理事会で互選、会長補佐、理事会各部長を兼務	3名
	理事	各サークルからの選出と理事会推薦	20名
	会計監査	理事会で選出、会計の監査	2名
理事会	総務部	総会、理事会等の運営、会員管理、会計、渉外等	6名
	事業部	活動計画の作成及び実施等	9名
	広報部	広報紙「広場」の発行とHPの運営、情報収集等	4名
サークル		ところざわ倶楽部の会員で構成	17サークル
会員		原則として所沢市民大学修了生とする	258名
特別会員		所沢市民大学及び、各種講座で依頼した講師	19名
定期総会/臨時総会		倶楽部の重要事項を決定する会 定期総会は毎年11月に開催	

※人数及び、サークル数は、2017年度の実績。

ところざわ倶楽部の活動年表 2007～2010 年

年度	主な活動内容&トピックス
2007 H19	◇11月20日生涯学習センターに於いて倶楽部の設立総会を開催 当日は93名の出席があり、会則、役員選出、活動計画、予算、広報活動等熱心に討議され、各議案は賛成多数により承認された。(創立時の会員数は128名)
2008 H20	◇広報紙「広場」は、12月に第1号を発行(市民大学だよりの最終頁に掲載) ◇公開講演会を4回開催。 「情報新時代のメディアと社会」講師:藤田博司(元共同通信記者) 「所沢市の現状と未来」講師:当摩好子市長 他 ◇皇居参観及び東御苑見学実施
1期	◇「広場」は、12月号より倶楽部として単独で発行(2頁構成)
2009 H21	◇生涯学習推進センター完成。16期、17期生より利用開始 ◇公開講演会を3回開催 「アンチエイジングに挑む」講師:成宮 学医師(西埼玉病院) 他 ◇日帰りバス旅行「佐原の街めぐり」実施 ◇第1回「倶楽部のあり方検討委員会」で会則改定等実施
2期	◇「広場」2月号より4頁構成に拡充
【倶楽部運営への思い 2007年～2009年 会長 佐藤 八郎】 平成19年11月20日、市民大学14期修了生128人の参加を得て「ところざわ倶楽部」は発足しました。倶楽部の特徴は市民大学2年次の講座をベースにサークルを作り活動を継続することです。14期修了生では6サークル、15期修了生は71人の入会者と共に6サークルが活動を始めました。又、生涯学習推進センターとの共催事業に取り組み、平成21年6月のセンターのオープニング記念行事には12サークルの活動状況をパネル展示しました。更に会員の親睦を深めるべくバス旅行を実施し、家族のみなさんの参加もあり盛り上がりました。	
2010 H22	◇公開講演会3回開催 「藤沢周平の魅力」講師:高橋敏夫(早稲田大学大学院教授) 他 ◇サントリー武蔵工場見学&府中郷土の森散策・博物館見学実施 ◇第1回 ところざわ倶楽部ウイーク開催(いきものふれあいの里センター)
3期	◇「広場」6頁構成に拡充及び、インターネット配信開始
【倶楽部運営への思い 2010年 会長 山田 武】 会員数は200名を超え、倶楽部の運営体制の見直しが必要となり、議論を重ねて種々の改革を進めました。 ① 市民大学2年次在籍単位の「連絡班」組織を廃止し、情報伝達をサークル主体へと移行 ② サークル代表者会議の運営及び、生涯学習推進センターとの共催事業担当の事業部を新設(後に企画部と統合) ③ 広報紙の全会員への迅速、確実な配信及び、郵送経費削減の為「インターネット配信制度」の導入 ④ 会費振込制導入 等々	

ところざわ倶楽部の活動年表 2011～2014年

年度	主な活動内容&トピックス
2011 H23 4期	◇東日本大震災:倶楽部として義援金を集め、所沢市にボランティア登録を行った ◇サークル活動活性化のため、講演会とセットにしたサークル説明会を開始 ◇公開講演会 4 回開催「どうなる日中関係」講師:羅敏鎮(東京経済大学) 他 ◇第 2 回 ところざわ倶楽部ウイーク開催(いきものふれあいの里センター) ◇親睦会として、芋煮会 & アルパ演奏 & トロ財団荻野豊理事講演会開催(Corot にて)
2012 H24 5期	◇公開講演会「どうして今頃男女平等？」講師:皆川満壽美(東大特任研究員) 他 4 回 ◇第 1 回 倶楽部文化祭開催(トコトコバンド、オカリナ・朗読劇など催し多彩) ◇サークル説明会と講演会「北欧デンマークに学ぶ福祉社会」新入会員のために実施 ◇第 2 回芋煮会:Corot にて会員の手料理「トロふるさと基金」の話を聞いた ◇「広場」8 頁構成に拡充 ★3月より HP 立ち上げ
【倶楽部運営への思い 2011 年～2012 年 会長 加曾利 厚雄】 発足当初の倶楽部は、市民大学と直結していて、役員は市民大学2年次の「講座単位」で選出されていました。3 年経つと問題も出てきたので、「サークル単位」で選出することにし、また、サークル活性化のため「事業をサークルと協働」で実施することになりました。 また、倶楽部の存在を地域に広めるため、いきものふれあいの里センターに於いて「倶楽部の活動展示会」を開催し、コロットにおいてトロのふるさと基金理事の講演会や地域の方のアルパ演奏会なども行いました。そのほか、「郊外都市所沢は生き残れるか」というテーマのグループワーク(ワールドカフェ)では市職員、市議会議員などを含めてのディスカッションを試みるなど、色々な形で地域との交流を深めることに注力しました。	
2013 H25 6期	◇公開講演会 3 回開催 「ips細胞とは」講師:長谷川由紀(理化学研究所) 他 ◇第 1 回 古典講座「現代に生きる松尾芭蕉(全 4 回)」川上義正先生 開催 ◇第 2 回 倶楽部文化祭開催
2014 H26 7期	◇公開講演会 3 回開催 「日本の東アジア外交のゆくえ」講師:藤田博司(元共同通信記者) 他 ◇文芸講座「人間・正岡子規(全 5 回)」講師:栗田博行(元NHK)開催 ◇新たな取り組みとして「パソコン講座」開催 ◇第 3 回 倶楽部文化祭開催 ◇第 2 回「倶楽部のあり方検討委員会」で会則改定等実施
【倶楽部運営への思い 2013 年～2014 年 会長 薄井 文子】 6期、7期のテーマは、「会員のもう1つの居場所作り」と「いきいき元気に楽しく活動すること」でした。また、半数近くを占める女性会員が気軽に、かつ興味を持って参加できる企画と雰囲気作りも、もう一つの役割でした。このため、6期開始とともに現場を知る第1歩としてサークルすべてを訪問しました。 事業の中で特に印象に残る講演会は「ips 細胞とは」です。横浜理化学研究所の若い女性研究員をお招きし会場が満席になりました。	

ところざわ倶楽部の活動年表 2015 年～2017 年

年度	主な活動内容&トピックス
2015 H27 8 期	◇公開講演会 3 回開催「モネが発見したニッポン」講師:斎藤陽一(元 NHK) 他 ◇文芸講座「歌舞伎と文楽(全 4 回)」講師:近藤瑞男(共立女子大教授)開催 ◇第 4 回 倶楽部文化祭開催 ◇総会時終了後に「同期会的な懇親会」を実施
2016 H28 9 期	◇彩翔亭で「新春の集い」と新会員歓迎会の開催スタート ◇公開講演会 1 回開催「世界の動きと日本」講師:茂木貴(元都立高校教師) ◇文芸講座「太平記(全 4 回)」講師:川上義正(元高校教師)開催 ◇第 1 回 サークル活動発表会開催 ◇第 3 回「倶楽部のあり方検討委員会」で会則改定等実施 ◇HP の更なる発展のため大幅リニューアル実施
2017 H29 10 期	◇第 2 回 彩翔亭で「新春の集い」と新会員歓迎会開催 ◇倶楽部創立 10 周年記念行事「生涯学習シンポジウム」開催 ◇文芸講座「夏目漱石(全4回)」開催 ◇倶楽部創立 10 周年記念行事「古楽器演奏 & 朗読劇ハーメルンの笛吹きおとこ」公演主催 ◇新会員紹介特別版「広場」発行 ◇倶楽部創立 10 周年記念誌発行
【倶楽部運営への思い 2015 年～2017 年 会長 稲村 洋二】 8期は、初めて倶楽部会員全員に対して満足度調査を行いました。倶楽部の運営について大多数は肯定的な意見でしたが、改善点の指摘もあり運営の参考にしました。 9期は、会員の資格要件を中心に倶楽部の「あり方検討会」を6回開催し、結果を会則に盛り込み、総会で承認を得ました。 10期は、10周年の3つの事業「生涯学習シンポジウム」、「10周年記念誌の発刊」、「音楽朗読劇ハーメルンの笛吹きおとこの公演」を中心に置き運営を行いました。	

【会員数の推移】

年度	100	200	300	
2008				128
2009				183
2010				213
2011				242
2012				237
2013				252
2014				257
2015				275
2016				285
2017				258

【サークル数の推移】

年度	10	20	
2008			6
2009			12
2010			15
2011			14
2012			14
2013			14
2014			20
2015			20
2016			18
2017			17

ところざわ倶楽部運営に対する会員の声

2015 年 8 期総会時に、今後の倶楽部運営に反映するため、会員アンケートを実施しました。
集約した結果は、倶楽部の役員で共有し、運営改善や事業の企画などに反映して来ています。

■総会について(回答件数:80件)

評価	占有率(%)					【改善ポイント】
	10	20	30	40	50	
大変満足	10					総会後に会員同士が集える機会を作って欲しいとの要望があり、総会会場をミューズに変更し総会のあと期毎にテーブルを設け同期会的な集まりができるようにしました。
満足		35				
普通			45			
不満	5					

■文化祭について(回答件数:96件)

評価	占有率(%)					【改善ポイント】
	10	20	30	40	50	
大変満足	10					参加者が会員数の 35%しかなくサークルに積極的に参加を呼びかけ出席を促すようにしました。 また、会員の意見として文化祭を通してサークルの交流をはかり、市民との交流をはかるやりかたをして欲しいとの要望があり、検討しています。
満足			45			
普通			35			
不満	5					
大変不満	5					

■公開講座について(回答件数:61件)

評価	占有率(%)					【改善ポイント】
	10	20	30	40	50	
大変満足	25					会員の要望を踏まえ、引き続き単発、連続講座共に、幅広く興味・支持がある講座の選択を心掛けて企画しています。又、場所や講師の都合もありますが、可能な限り早めに日程を確定して多くの方に参加して頂けるようにしています。
満足			55			
普通	10					
不満	5					

■ホームページの使い易さについて(回答件数:132件)

評価	占有率(%)					【改善ポイント】
	10	20	30	40	50	
大変満足	15					新規に更新された情報が分かりづらい。トップページの毎回の变化をという声がありました。 そこで、毎回の更新時に、新着情報をトップページに明示し、同時にトップの写真も会員からの新たなものを掲載するようにしました。
満足			45			
普通			35			
不満	5					
大変不満	5					

ところざわ倶楽部の主要事業 2016, 2017 年事例

倶楽部の事業は、総会で承認された事業計画に基づき、理事会と事業部で詳細を企画・運営し、編集会議でつくった広報誌「広場」による周知・報告を行っています。

◇1月 新会員の歓迎会「新春の集い」



◇9月 サークル活動発表会



◇4月 公開講座「世界の動きと日本」



◇11月 定期総会



◇5月 文化祭



◇11月 総会後の懇親会(同期会)



◇6～7月 文芸講座「夏目漱石」(全4回)



◇理事会:1回/月、広報紙編集会議:1～3回/月



1. 広報紙「広場」の発行…広報部及び、編集委員が主体となって毎月発行（8月には夏休み休刊）

◇配布先:会員、特別会員、市民大学、記者クラブ等

◇配置先:生涯学習推進センター、公民館等

編輯會議風景

2. ホームページの運営…原則、毎週月曜日更新しています。(管理人は、初代:岡田氏、現在:玉上氏)

◇ホームページは、広報紙「広場」と並行して、よりアップデートで、会員以外にも幅広いの情報発信の場として2012年3月に開設しました。

2016 年 1 月に、更なる充実を図るため、全面的なリニューアルを行い現在に至っています。

※専用のドメイン名「tokorozawaclub.com」を取得し、専用サーバーと契約し運営しています。

◇ホームページの機能をフルに活かして、各サークルの活動記録や会員の投稿等を掲載しています。又、「広場」のバックナンバー、暮らしに役立つリンク集、倶楽部メンバーの HP・ブログへのリンク集、会員個人からの情報などのコーナーを設けています。

- 7 -

サークルと活動領域

サークルは、所沢市民大学2年次のグループワークの継続・実践の場として立上げて来ています。他のサークル活動に興味があれば、複数のサークルに加入することも出来ます。

活動領域	サークル名	会員数	結成時期/母体
自然・環境	地域の自然を考える会	9	第14期 地域の自然
	地球環境に学ぶサークル	11	第14期 地球環境
	所沢の自然と農業サークル	23	第15期 環境倫理
政治・経済	アジア研究会	25	第14期 日本と世界
	食を通して所沢を知る会	12	第18期 有志
	傍聴席	15	第14期 日本の将来
健康・福祉	活いきシニア福祉の会	16	第21期 高齢者福祉
	所沢シニア世代地域デビュー支援の会	8	第18期 第20期有志
	脳活サークル	17	第18期 脳の科学
	北欧の会	5	第15期 日本経済
芸術・文学・歴史	葵の会	31	第16期 能と源氏物語
	楽悠クラブ	40	第14期 音楽
	ドラマティック・カンパニー	13	第15期 文学と音楽
	懐かしの映画・鑑賞会	51	第19期 元気なまちづくり
	野老澤の歴史をたのしむ会	38	第16期 所沢市史
	民話の会	9	第14期 有志
	歴史散策クラブ	25	第15期 所沢の歴史

◇倶楽部の大きな特徴として、

- ・複数のサークルに加入して楽しんでいる会員も多くいます。
- ・サークル同士の交流・コラボ活動も活発に行われており、仲間づくりの拡大につながっています。
- ・広報紙の他サークルの活動計画を見ながら、イベントごとの特別参加も可能です。

<複数のサークルに加入して楽しんでいる会員数>

加入サークル数	2サークル	3サークル	4サークル	
会員数	59人	11人	2人	合計:72人

<各サークル間のコラボ活動事例>

・地産地消をテーマにした公開講演会の共催(所沢の自然と農業&食を通して所沢を知る会) ・政治と環境をテーマとした映画会共催(傍聴席&地球環境に学ぶ) ・食と文化をテーマとした料理教室の共催(食を通して所沢を知る会&アジア研究会) ・自然環境をテーマとした研修会の共催(地球環境に学ぶ&所沢の自然と農業) 等のイベント共催、他サークルのイベントへの特別参加等々、コラボ活動が広がりつつあります。
--

特別会員の紹介

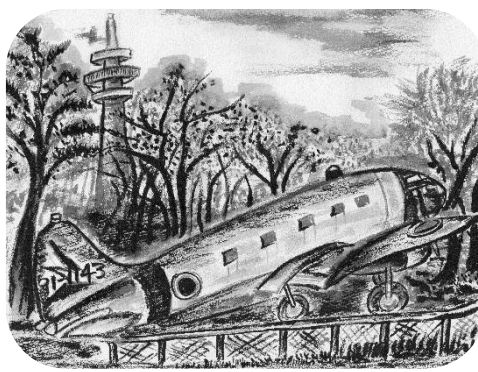
◇ところざわ倶楽部では、現在19名の特別会員がおられます。

※会則で「所沢市民大学の講師及び本会が依頼した講師を特別会員とする」と定めています。

◇特別会員に倶楽部からお願いしている支援・指導内容

- ・サークル活動に対する支援・指導
- ・公開講座の講師
- ・広報紙への寄稿 など

講座	氏名	プロフィール
地域の自然	大堀 聰	早稲田大学理工学部講師
原発問題	滝谷紘一	元原子力安全委員会
地球環境	太田俊二	早稲田大学人間科学学術院教授
日本の農業	淵野雄二郎	東京農工大学名誉教授
外交	萬歳寛之	早稲田大学法学部教授
メディア論	門奈直樹	立教大学名誉教授
日本と世界	羅 歡鎮	東京経済大学教授
地方自治	廣瀬克哉	法政大学法学部教授
社会教育	細山俊男	社会教育・生涯学習研究所所長
都市の環境	安藤聡彦	埼玉大学教授
脳の科学	阿部和穂	武蔵野大学薬学部教授
介護福祉	大久保清一郎	ロイヤル病院院長
放射線の科学	丸山浩一	元北里大大学院医療系研究科教授
音楽・文学	笠松泰洋	作曲家・演奏家
歌舞伎	近藤瑞男	元共立女子大学教授
音楽	藤田 明	聖学院大学名誉教授
正岡子規(俳句)	栗田博行	元 NHK プロデューサー
所沢の歴史	門内政広	文化財保護全国協議会員
近代史	渡辺隆喜	明治大学名誉教授



「生涯学習シンポジウム」の開催

2017年5月29日 所沢市民文化センターミューズ(ザ・スクエア)に於いて「生涯学習」をテーマにシンポジウムを開催しました

第一部 基調講演「青春をもう一度！学びへのチャレンジ！」

講師：加瀬裕子先生(早稲田大学人間科学学術院教授)

＜国民としての模範なる私＞

1. 考え学ぶ「私」
2. 行動して確かめる「私」
3. 仲間と協同して成長する「私」
4. 意見を言える「私」
5. 自分の意見に責任を持つ「私」



会場は204名の熱気で圧倒！

◇チャレンジへ学びの四つの意義

冒頭、先生は「熟年になってからの学び方にはコツがある。昨日、夫と話していて”ほら、あの有名な歌手がいるじゃない”と言っても名前が出てこない」。これ、我々高齢者は思いあたります。

先生曰く、学びにチャレンジすることには四つの意義がある。

一つは、学習能力は死ぬまで発達する。

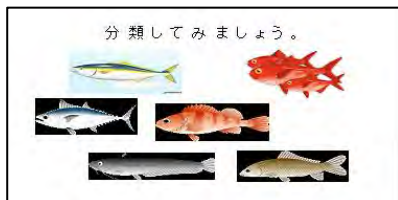
二つには、高齢者は何もできないというエイジズムを打破すること。

三つめは、自分を取り巻く社会や環境について学ぶ。国民としての自覚。

もう一つは、若者でいるために。これが今日の講演の目標ですと具体的なお話しに入られました。

※エイジズム：米国のバトラー博士「年をとることに対する嫌悪感や高齢者をうとむ風潮、偏見」

◇魚の分類を例にとつての先生の話はユーモアを交えながらの講演で魚の絵分類を例にとつて、どう分類するか会場に問いかけられました。



「深海魚と近海魚！」「淡水か海水か！」「うまいかまずいか！」「太いか細いか！」など、会場から大爆笑が起きました。

見る人の視点によって分類は違う。何事も多方面からの見方が有り”真理”は1つではない。と云うこと等分り易くお話し頂きました。

全編が”老年生活”へのエールに満ちて、これからの生活に生き甲斐を憶える内容で、時宜をふまえた結構な講演だったと思います。

(参加者の声)

「講義」の展開が“学ぶ意義”を具体的に提示されてから、学び方を考える、という流れが大変頭に入り易く、納得や共感する点が多い。“何となくぼやっと”していた学ぶ意義や考え方に明確なサゼッションを与えて頂きました。

(参加者の声)

第二部 パネルディスカッション テーマ:倶楽部の歩みと生涯学習&豊かな人生



<パネリスト>

加瀬裕子 早稲田大学教授
細山俊男 生涯学習研究所所長
佐藤八郎 ところざわ倶楽部初代会長
薄井文子 同上 6期～7期会長
稲村洋二 同上 現会長

<コーディネーター>

佐藤重松(事業部長)

◇細山先生、初代会長の佐藤八郎氏からは、市民大学が今日に至る歴史的背景と、修了後の受け皿としての、倶楽部創設当時のご苦労や、当時の思いが熱く語られました。

薄井文子氏からは女性会長として、男性中心の倶楽部ではなく、ほぼ半数を占める女性が気軽に参加できる企画や倶楽部運営を託されたことを話されました。

現会長の稲村洋二氏からは会員の高齢化、入会者の減少など現状の苦労、10周年へかける思いと、ところざわ倶楽部の更なる高い次元への飛躍が宣言されました。

◇加瀬先生の講演、パネリストの共通的な言葉として印象に残ったのは、“縁を大切に” “枠にとらわれない”と言うことでした。

◇市民大学も今期で25期目を迎え、その中でOB会である「ところざわ倶楽部」も創立10周年の節目を迎えました。

その両者の足跡を辿りながら、我々シニア世代が「出来る限り一日でも長く活きいき」と人生を生き抜いていく“知恵”が、このシンポジウムで共有できたのではないかと思います。



終了後の参加者とパネリストの懇親会風景

「人として生まれ」世の中の一員として、自分ができる「より良き社会づくりへの」参加・ささやかなたゆまない実践！ここに繋がって行くこと=これを「生涯学習」の持つ意義と心に刻みました。言うならば、宮沢賢治の「アメニモマケズ」の詩のように生きられればと、思う次第です。

(参加者の声)

音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」公演の主催

2017年9月18日所沢市民文化センターミューズ・マーキーホールに於いて、ところざわ倶楽部特別会員の笠松泰洋先生台本構成・作曲による音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」の公演を主



催しました。

●演出・振付:広崎うらん ●朗読:鶴見辰吾

●子供出演者:所沢市小学生45名



10周年記念事業の目玉とも言える本イベントは、約700名の観客で満席となり大成功の内に終了しました。

この成功は倶楽部会員始め、多くの市民の皆さんのご理解とご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。

◇成功へのステップ 1

昨年(2016年)9月のところざわ倶楽部理事会に於いて、本イベントの開催を決定し11月の総会で承認されました。倶楽部にとって前例の無い大イベントであり、不安と期待の入り混じる中で2017年正月明けに実行委員会を立ち上げました。



開演前の長蛇の列

懸念されたチケット販売も7月末には完売となりました。この販売力は企画の良さに加え、倶楽部員全員の奮闘の成果であり、倶楽部の底力の現れではなかったかと思われます。子供出演の応募者も6月中に定員オーバーとなり、当初の定員を若干増やして対応しました。

◇ステップ 2 <リハーサル>

7月よりリハーサルを開始。初日のリハーサルを迎えた子供達の顔は緊張気味でしたが、笠松先生のユーモアを交えた巧みな誘導で次第に元気な表情に変わり、終了時には親子ともども明るい笑顔に変わっていました。

橋から飛び降りる動作など激しい動きもあり心配しましたが、怪我もなく子供達は元気に踊り、走り回りました。ねずみの動作は各々“自分のイメージで動きなさい”といわれ、最初は戸惑っていたものの、次第にそれぞれの子が自分で動きを考え「ねずみ役」を演じ始めました。

このようなリハーサルを、3回重ね本番を迎えました。



◇本番

前日からの台風の動きが心配されましたが、当日は好天に恵まれ、会場は2階席まで満席となりました。

一部では、あまり接することのない懐かしい音色の古楽器のメロディーを堪能しました。二部は音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」が上演され“鶴見”さん、“うらん”さんの熱演に感化されてか、子供達も役に成り切り「ねずみ役」「子供役」を生きいきと演じ最高の出来となりました。



鶴見さんの朗読の最後の言葉 “約束は、たとえ見知らぬ人と交わしたことであったとしても、決しておろそかにしてはならない” この言葉は、子供だけでなく、大人にも向けられたメッセージであり、決して昔の話ではなく、現代こそ守るべき言葉として胸に響きました。

記念撮影時の子供たちと親御さん、ところざわ倶楽部会員が一体となつての大歓声と笑顔にところざわ倶楽部10周年記念事業の完結を見た思いです。



<子供出演者・観客の皆さんの声>

- ・終演後引き上げてきた子は開口一番“楽しかった。またやりたーい！”と叫んでいました。
- ・初体験で緊張したが家族みんなのイベントとして楽しめた。
- ・優れた物語性に加えて、素晴らしい朗読と笛吹きおとこ、そしてかわいい子供たちの出演、古楽器の奏でる音響効果、すべてよかった。
- ・子供や親御さん、そして祖父母層にとっても、実に思い出深い一日となり、まさに市民のファミリー劇でした。
- ・シンプルな舞台装置と映像で見せた演出は見事だった。

◇新たなステップへ

殆どどの子供達にとって新しい経験であり、演じることの素晴らしさを体感したのではないのでしょうか。更に、素晴らしい古楽器演奏の調べ、音楽朗読劇にもこのイベントを通して興味をもったと思います。自ら創造し表現する事の難しさ、楽しさも感じ、今回の体験をキッカケに子供たちが新たなステップへ羽ばたいて行くことを期待しています。

また、倶楽部の皆さんはチケット販売を通じて知り合いとなった方を始め、近隣の方々とも新たなパイプを築かれた様にお聞きしております。これを機に倶楽部の皆さんと多くの市民の皆さんとの新たな交流の輪が広がることを願って居ります。

最後に笠松先生始め出演された方々の情熱、出演者の要望に快く対応して戴いたミューズスタッフの皆様、本公演に係わっていただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

◇笠松泰洋先生の倶楽部創立10周年に対するコメント。



9年ほど前に、市民大学の「シェイクスピア朗読」の修了生の方々が、ところざわ倶楽部にドラマティック・カンパニーを立ち上げ、継続してシェイクスピアを読んで行きたいので、引き続き講師をやって頂けないかと提案されました。

月に2回のシェイクスピアの読書会。その時の予感で、今後忙しくなった時に、自分1人では読書などしなくなるかもしれないけど、皆さんがいれば、ずっとシェイクスピアを読み続けられるのではないかと思います、引き受けました。

それから、ずっとこの楽しい時間は続き、「ヘンリー6世」をはじめとして、自分が仕事では巡り会う機会のなかった作品も多く読むことになりました。こうして今や、ドラマティック・カンパニーで過ごす時間と、そこでの人間関係は、私にとって人生の宝物となっています。

「ハーメルンの笛吹きおとこ」のところざわ倶楽部主催での上演はその宝の結晶となりました。

地域の自然を考える会

■ 生い立ち

私達「地域の自然を考える会」のメンバーは、大堀聰先生のご指導のもとで2年次の活動を行いました。たまたま市民大学に係わる所沢市の取り組みが変わり、14期から2年制になりました。また14期の修了生は約150名で2年次に「地域の自然」のテーマで自由研究に係わった者は25名でした。25名がそれぞれ思い思いのテーマで地域の自然に係わり

第1グループは、所沢の緑と質(植生調査)

第2グループは、緑の現状と問題点(公園)

第3グループは、次世代に残そう所沢の緑で現在の「地域の自然を考える会」サークルは14期及び16期生が中心になっております。当初の立ち上げの段階では、サークルの発足を強く推進しようとしていた方がサークル発足時に脱落するなどサークル発足メンバーは9名でした。この時のサークルの目標は、地域に放置されている武蔵野の雑木林が遷移により消滅に向かっている逼迫している状況を食い止めたいと言うものでした。

■ 初期の活動

2年次の担当講師大堀聰先生が早稲田の自然環境調査室におられた頃は、大学の教室での先生の講義を聴講したことで先生の市民大学での講座を思い出した事、また外来植物のセイタカアワダチソウやニセアカシアなどの除去やB湿地での観察会、国蝶オオムラサキの卵の固体調査、蛍の観察会などに楽しく参加させて頂きました。特にB湿地での観察会で毒蝶の麝香揚羽の観察、それを擬態する蝶がいること、食餌植物のウマノスズクサがあるところに麝香揚羽は生息する事などを知りました。

反省点ともいえるのですが、大堀先生としてはご自分が講座を持たれていた「地域の自然」のサークルが統合できないだろうか？との希望を持たれていましたがサークル同士の話し合いによって親戚づきあいで行こうとなったことで

落ち着きました。その後、農業系のサークルとしての色彩が濃くなったサークルもあり独自の活動が盛んになったことなど独立独歩の歩みが良かったことと感じております。

■ 現在の活動

◇トトロ12号地の管理

現在この活動が主なものですが「公益財団法人トトロのふるさと基金」が買収や寄付によって取得した管理地である雑木林は保全管理が必要です。この雑木林の保全管理を私達サークルは当初の目標としていたわけですが、国木田独歩の「武蔵野」に約200年前の文政年間の記述として太平記に書かれている古戦場「小手指原久米川」のうち「武蔵野の俤は僅かに入間郡に残れり」とある様です。その武蔵野の雑木林トトロ12号地が小手指原の一隅にあるのも奇縁とでも言うのでしょうか。何とか消えて行きつつある雑木林を保全管理して行きたいものと思います。



◇全国河川一斉調査

2014 年から調査に参加して 4 回目を迎えましたが、本調査の目的である「全国一斉の河川等の水質調査を継続的長期にわたり行う事によって、きれいな水環境を次世代に引き継ぐことを目標にする」との理念の基に行う調査です。

私達のサークルは、下山口駅の南側に位置する柳瀬川に架かる西ヶ谷戸橋その下流の樋の坪橋・里橋・そして東村山市との境に位置する二柳橋の 4 地点を受け持ちました。朝 8～10 時までのほぼ 2 時間でしたが、周辺の観察やサンプルの採取などを行い所沢北高校の化学実験室に運び水質調査を試薬などで行いました。

若い高校生の指導の下、一緒に行う水質検査はサークルとして続けられれば続けてゆきたいと感じます。

このボランティアは、地域や公的機関への協力ですので地域貢献をしている充実感を持つことに繋がっております。

これからサークルのメンバーが年を重ねる中で大堀門下の地域の自然サークルへ継承する時期は遠い先ではないでしょうが継続に向け協調してゆきたいと思います。



◇竹林の管理

年に 1 回の楽しみで、竹林が盛んに生育する 5 月頃に竹林の管理の一環ですが、トトロ財団の管理地で筍掘りを楽しく行っています。筍掘りなど、普段経験する事はありませんが、掘る要領を教わりながらですと問題なく出来るのが不思議なようです。

何事も同じかもしれませんが物事を進めるには適切な知恵が必要であることが分かります。



◇トトロの収穫祭

11 月頃に声を掛けて頂き「クロスケの家」で行われるトトロの収穫祭に参加しています。

係わっているボランティアのほかのグループと顔を合わせる貴重なひと時となっております。

■これから

昨年 23 期の方々と 12 号地で共同作業を行いました。今年は 24 期の方々に声をお掛けし私達のボランティア作業を見て頂こうと思っています。

これからの私達のサークルの使命と考えて、今後巣立ってゆく期の方々へ雑木林の保全活動を広げてゆくことや全国水環境一斉調査の継承を図ってゆかなければならないと思います。

地球環境に学ぶサークル

■ 市民大学から、ところざわ倶楽部へ

市民大学14期から2年次制となり、「地球環境講座」として早稲田大学・太田俊二先生のご指導のもと、2つのテーマで勉強することになりました。(6名×2グループ)

◇温暖化の農業に与える影響

◇新エネルギーへの取り組み

この2年次の研究成果の発表が秋に行われ、市民大学を修了。12人のメンバーは新しく発足した「ところざわ倶楽部」の「地球環境に学ぶ」サークルを立ち上げました。

■ 最初のころ

地球環境に関することいろいろ幅広く見学・勉強しました。例えば自然観察会(八国山、いきものふれあいの里センター)、ごみ処理施設見学(県・環境整備センター・寄居、所沢市東部クリーンセンター)、地産地消の料理講習会等です。

・月1回の定例会は8月を除き必ず実施しました。この勉強の題材は当サークルから3人が「埼玉県地球温暖化防止活動推進員」を委嘱されていたので、その講習内容やエコ見学会の実施状況を体感し、後の活動に大いに役立ちました。

・所沢市の環境担当の環境総務課(当時)のお手伝いとして、夏・冬に行われたエコライフデーの集計業務を行いました。



八国山散策

■ 主な活動実績

◇エコ見学会

・那須野ヶ原 2010.9 参加者 21名

バスによる初めての見学会 家畜排泄物からのバイオガス発電設備および用水路の落差利用の小水力発電設備。



戸田調整池にて

・山梨県メガソーラー

2012.10 参加者 25名
バスによる見学会、米倉山(10MW)および北杜市(1.8MW)太陽光発電所



・埼玉県北部諸施設

2014.10 参加者 23名

バスによる見学会、鴻巣市防災センター、行田浄水場(太陽光1.2MW)、環境科学国際センター、ソーラーオンザウォーター桶川(水上太陽光発電 1.2MW)



・石坂産業 2016.3

参加者 31名 現地集合 産業廃棄物処理施設(リサイクル率95%、施設敷地の8割が里山) 「所沢の自然と農業」と共催



・日本科学未来館 2016.5 参加者 9名

電車利用 「北欧の会」と共催

◇講演会

・「フードマイレージから食と環境を考える」
農水省 中田哲也氏 2011.5 参加者 90 名
2ヶ月前の東北大震災と原発事故で飯舘村の惨状で涙ぐむ場面も。

2011. 5/28(土) ところざわ農産部「食と環境の講演会」資料
あなたの食が地球を変える
～フード・マイレージから食と環境を考える～



中 田 哲 也 (勤務先) 農林水産省 統計企画課 数値官
電話 03(352)8111 内8724, FAX 03(3501)9644, E-MAIL: tnakata@affrc.go.jp
【ウェブサイト】フード・マイレージ資料室
http://members3.jcom.home.ne.jp/foodmileage/fmtpo_index.html



中田氏講演会質疑応答

・「放射能の何が問題か」 元原子力安全委員会
滝谷紘一氏 2013.1 参加者 一般 50 名を含め
計 150 名と関心の高さが伺えました。
※事前に市環境対策課から計測器を借り、市内
の放射線空間線量の測定を全員で実施しました。
※4月に同課の出前講座を受け
※“ところば”で近隣の農作物の放射線量測定に
立ち会いました。



落ち葉の上の測定



測定器にコメをセット

・「みんなで進めよう、太陽光発電」 公開シンポ
ジウム 2015.5 参加者 67 名
竹村英明氏 市民共同発電所の意義と実例、
ソーラーシェアリングに関心が集中していました。



所沢市長も出席

◇映画上映会

当サークルとして協賛又は紹介として多くの
方に見ていただくよう努めました。

・「ミツバチの羽音と地球の回転」
2011.9 800 名(3回入替)ミューズ・キューブ
・「第4の革命」 2012.9 300 名 狭山市民会館
・「日本と再生」 2017.7 320 名(2回入替) 新所
沢公民館ホール



■ 今後の課題

・高齢化の問題は避けようもない。少しでも若い
人が入会する方策。
・市民大学2年次の講座の中に、常に「地球環境」
に関するものが含まれていると良いが。
・定例会での研究課題発表、提案、提言など自己
啓発に努める。
・他環境団体との協調については、その都度適宜
相談の上決める。

所沢の自然と農業サークル

■ 創設期

市民大学15期の2年次に選択した「環境倫理講座（講師：東京大学大学院教授 鬼頭秀一先生）」を修了し、グループワークで学んだ三富新田の平地林の手入れ体験や循環型農業の実態調査結果から提言としてまとめた「里山を現在に活かし、未来につなげる」を活動テーマとして、「地域の自然と農業を考える会」を立ち上げ、ところざわ倶楽部に入会しました。

※ところざわ倶楽部創設2年目の当時は、修了生はサークルを立ち上げて、ところざわ倶楽部に入会する流れになっていました。

当時のメンバーが6名と少なかったこともあり、活動テーマが似ている「地域の自然」「地域の自然を考える会」とは、合併の相談もしましたが、お互いに協力して活動をカバー仕合いながら体制を整えました。

16期の「日本の農業講座」のメンバーから、修了後に当サークルに加入したいとの申し入れがあり、お互いの交流を経て合体し「里山の保全」と「農業の活性化」を活動の2本柱とした現在のサークルの基盤が出来ました。又、サークル名も現在の「所沢の自然と農業サークル」としました。

■ これまでの活動

サークル活動は、埼玉県や所沢市等の行政や諸活動団体と連携しながらの活動が多いことが特徴の一つです。又、里山の保全活動は体力に見合った活動へと転換を図り、農業活性化活動では、自らが農作業に携わるなど「変化しながら成長」してきました。

＜里山保全活動の主な取り組み＞

◇2010年～2013年 三富アライアンス活動

埼玉県の「三富地域」の循環型農業や里山の保全を目的として産・官・学・民の団体「三富アライアンス」の立ち上げに参画して「農と里山シンポジウム」や「三富地域・千人落ち葉掃き」の実行委員団体として活動しました。

◇2014年～ 里山の保全活動

三富アライアンス活動終了後は、所沢市と三芳町の平地林の落ち葉掃き体験会の開催を行っています。（今年認定された日本農業遺産の登録推進活動に多少なりとも寄与出来たと自己満足）

又、くぬぎ山地区自然再生協議会主催の所沢市の「くぬぎ山・駒が原の森」の保全・再生活動には、サークル創設以来継続して参加しています。



◇2010年～2016年 景観まちづくり活動

2010年の所沢市景観条例策定の市民会議への参加から取り組み、2012年の景観まちづくりの市民推進団体である「景観市民活動クラブ」立ち上げに参画し、市役所市民ホールでの活動展示会、広報紙の発行及び、景観ツアー開催などによる景観まちづくりの啓発活動を行いました。



＜農業活性化活動の主な取り組み＞

◇2010 年～ 地産地消の促進活動

16 期メンバーが付き合いの有った峯岸さんが運営する「古民家付き農園 Corot」の思想に共感し、立ち上げ時の支援活動を行って来ました。

又、所沢市の農商工連携で地産地消に取り組んでいる「ところ産食プロジェクト」に対しては、会員の落ち葉掃き体験会の開催やリーダーを講師とした地産地消促進講演会の開催、加盟店での食事会等の応援活動を行っています。



◇2014 年～ 市民大学ファーム活動

2013 年の所沢市と東京農工大学の官学包括連携協定の一環である「里芋実証園プロジェクト」を支援する中で、隣接する休耕地 300 坪の提供を受け「市民大学ファームの会」を設立しました。

現在は 26 名の仲間との親睦と有機野菜作りを楽しむと共に、「休耕地の活用と市民の農に親しむ場づくり」のモデルケースを目指して活動しています。



＜健康づくりと親睦活動の主な取り組み＞

◇年数回の四季折々の花見を兼ねた散策を行っています。



◇2014 年から始めた長野県高山村のりんご農家ボランティアは、春の花摘みと秋の収穫作業と近隣の観光をセットにしたイベントとして毎年楽しんでいます。



◇暑気払いや忘年会、市民大学ファーム収穫祭、定例会を兼ねた食事会等も楽しんでいます。

■ これから

継続的に市民大学修了生が入会し、今年は市民大学修了生以外の市民の入会もあり、現在はメンバー 23 名と大所帯となりました。

創設 10 年目となり、母体の高齢化は避けられませんが、今までの経験と新規加入者の新たな知見とを融合させて、これからも「いつまでも健康で、楽しく学び、地域に貢献することで充実したセカンドライフを」のスローガン通りの活動に取り組んでいきたいと思っています。

アジア研究会

■ 創設期

市民大学 14 期「日本と世界」の受講者が、2年次のグループワークで、浜林正夫一橋大学名誉教授のもとで、中国、インド、韓国に分かれて学習、修了後にところざわ倶楽部設立と同時に会員 17 名でサークルを立ち上げました。設立当初「アジアを知ろう、見よう、食べよう、交流しよう」のコンセプトを掲げました。その後好奇心旺盛な初期メンバーに加え、20 期修了生 7 名などを始め、各期の新入会員も加入し、サークル運営の中心となって活躍し、現在 25 名の会員で世代交代しつつあります。ところざわ倶楽部では珍しい「研究会」というサークル名にふさわしい活動を模索しています。

■ これまでの活動

設立当初は、新しいアジアの時代が予測されていましたが、近年、日中、日韓関係など複雑化し、多くの諸問題が露呈し、近隣諸国との友好がいかに難しいかを実感しています。

そのような中で、私達はアジア諸国の人々との草の根レベルでの友好をめざして、いろいろな活動を進めてきました。幸いにして、メンバーの中にはアジア諸国に駐在、出張、旅行されている人が多くおり、アジア諸国の事情に詳しいメンバーからの問題提起など活発な議論ができるサークルとなっています。

＜外部講師により講演会、学習会＞

2011 年に東京経済大学の羅敏鎮教授による公開講演会「どうなる日中関係」などやこれまで、アジアに造詣の深い各界の講師や留学生、所沢在住アジア人などによる講演や交流をしてきました。

＜サークルメンバーによる体験談、報告会＞

各国に駐在経験のある会員から現地事情の報告会、旅行記などの報告をもとに議論し、意見交換をしました。特に日本と関係の深い中国、韓国、タイ、ASEAN 諸国、インド、カンボジアなどの興味深い話を聞くことができました。



＜他のサークルとのコラボレーション＞

◇料理講習会・試食会

アジアのスパイスについて 2016 年、2017 年の 2 回にわたり食トコの園田講師によるアジアのスパイス講習会、調理実習、試食会を開催し、好評を得ました。



◇高麗郡建郡 1300 年で高麗神社を訪ねる

野老澤の歴史をたのしむ会、葵の会などとの合同企画として 2016 年に高麗神社で宮司からの講演を聴きました。

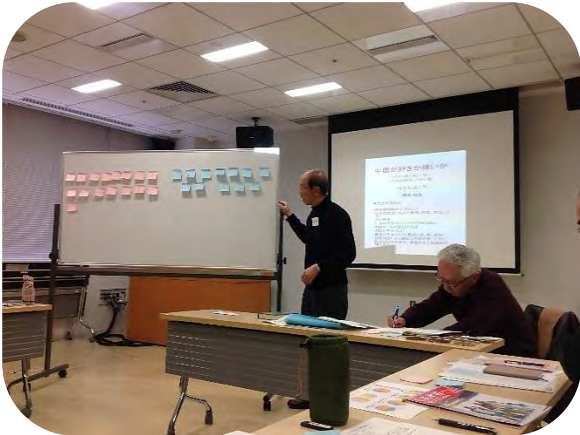
◇回教寺院(東京ジャーミー)訪問

イスラームを理解するために東京代々木上原にあるイスラーム寺院でイスラームについて講義を受けました。食トコとのコラボレーションで、見学後トルコ料理を堪能しました。

<その他の主な活動(討論会など)>

◇「中国と仲良くなるには」

メンバーを二つに分けて中国が好きか嫌いかという議論を2回行い、たいへん活発な意見が交わされました



◇最近の世界情勢を考える以下のようなテーマで、各メンバーが担当してレポートし、その問題提起に関して意見交換しました。

例えば: ・トランプ大統領の外交政策
・朝鮮半島問題を考える
・安倍首相のアジア外交について
・台中関係を考える
・ハルビン 731 部隊陳列館について
・中国残留孤児の歴史と現状
・東大 5 月祭北朝鮮脱北者講演会聴講
など



■ これから

現在アジア諸国は多くの問題を抱えていますが、世界的に見ると目覚ましい経済成長をしています。

そのような中で、私達は日本という殻に閉じこもることなく、アジアの一員としてなにができるかを真剣に考えていきたいと思っています。

そのためには、アジアの現状を正しく理解しなければなりません。今日本には、多くのアジア諸国からの留学生や研修生が生活しており、所沢も例外ではありません。

更に多くの観光客も来日しています。

私達は、身近なところからなにができるかを模索しつつ、何らかの形で地域に貢献することも考えて、今後はアフリカへも視野を拡げて、例会後の「反省会」という伝統を大事にしながら活動していきたいと思っています。



食を通して所沢を知る会

■ サークル設立にいたるまで

1. 設立メンバー

市民大学 18 期修了生

2. 設立経緯

「所沢で安心・安全な農産物を手に入れることができるのか?」「所沢野菜という“のぼり”はなに?」「地産地消レストランを応援したい!」など所沢の「食」についての関心と疑問からサークル設立に向けて動き出しました。農業振興課出前講座「所沢市の農業と農業振興について」を受講し、生産者とレストラン経営者から「地産地消の取り組み」などを会合、イベントを通して学び、活動の骨子を固めてきました。「所沢の食」をキーワードに活動の領域を広げていけると確信しました。

3. 目標とする活動内容

- ◇所沢の「食」に関連する「情報通」を目指す。
- ◇「地産地消の生産者」訪問と交流促進を図る。
- ◇地場産食材を利用したレストランの掘り起こしとPR活動の促進。
- ◇所沢スローフードである「うどん」「焼きだんご」の探求。
- ◇「食」のイベントへ積極的に参加。



4. 設立総会

所沢の食を通して「学びと楽しみを獲得する」を目標に2014年2月有志10名にてサークル名「食を通して所沢を知る会」略して「食トコ」を設立しました。



■ 2014 年～2016 年、主たる活動内容

<2014 年の活動>

- ◇設立総会—今後の活動方針案を決めました。
- ◇所沢市民文化フェアの見学—所沢の食について情報の収集を図りました。このフェアで里芋コロッケ、所沢ビール、うどんなど地場産の出展物を見学しました。



- ◇地産地消レストランで暑気払い—航空公園内「エコトファーマーズカフェ」で、地ビール(野老ゴールデン)と地酒(夢とこ)で乾杯、所沢産食材をメインとした料理を堪能しました。
- ◇狭山茶の茶摘み体験—所沢生産農家の茶畑で新芽を摘む体験と新茶をいただきました。

<2015 年の活動>

◇「所沢の地産地消レストラン MAP」制作—山口にあるレストラン訪問を始め多方面の情報収集を図りました。そして「ところ産直プロジェクト」に地産地消レストラン MAP 企画提案しました。しかし、総意を得られず今後の課題となりました。

◇「食品表示と食品添加物」のテーマで当サークル玉上佳彦氏が講演—ところざわ倶楽部の会員を対象を広げて開催、23名の参加を得ました。



◇「歯と健康」の出前講座受講—市保健センターの歯科衛生士による「80歳で20本以上の自分の歯を保とう」というテーマで出前講座を受講、歯の持つ役割、歯の磨き方だけでなく、歯を健康に保つ方法など指導を受けました。

◇入間博物館(アリット)見学—博物館は4つの常設テーマで構成されており、その中の一つ「茶の世界」について詳しい説明を受けました。

◇「里芋のスパイス料理講習会」—講師は栄養士の資格を持つ当サークル園田ヒロ子さん。園田さん指導で、所沢産の里芋-土垂を使用した中華料理(里芋ねぎ風味)やエスニック風(里芋ココナッツデザート)(里芋だんご)を料理しました。園田さん提供の普段使わない種々のスパイスで一味違った料理作りに挑戦しました。

<2016 年の活動>

◇入間市博物館学芸員による「狭山茶の歴史講座」開催—狭山茶の栽培、製茶の始まり、江戸時代後期に蒸し製茶が宇治から現在の入間市近在

に伝わった過程、そして「狭山茶」ブランドの誕生と発展など「狭山茶」通になれる講座でした。

◇料理コンテストに応募—一家の光主催「ザ・地産地消 地元の“おいしい”を全国に発信しよう！」料理コンテストに応募しました。5月、所沢産食材の検討、6月、レシピの作成、7月、応募作品を調理「野菜が主役のおかず」部門に作品名「トコロンの野菜たちのココナッツカレー」を、「素材を生かしたスイーツ」部門に同「とことこシフォンケーキ」に応募しました。2017年も応募して「所沢野菜」の知名度をあげる一助を計っていきます。

◇地元野菜でピザパイ作り講習—「所沢の自然と農業」サークルと共同で地元野菜を使ったピザパイ作りの講習を開催しました。



■ サークルの今後の課題

◇課題の一つは所沢でも健全な食生活がなされていない子供たちに、各家庭にある未使用の食品や食材を提供している「フードバンク」の活動に支援・協力すること。

◇二つ目はところざわ倶楽部で「食」をテーマに活動している唯一のサークルとして、食のミニ講演会、料理講習会の開催などを通して他サークルとのコラボレーションを促進していくこと。

◇「食」全般の学びを深め、所沢の現状を把握して、地域に多少なりとも貢献できる活動の場を広げていくこと。

傍聴席

■ 14期「日本の将来」藤田博司

傍聴席の原点は、14期2年次のグループワーク「日本の将来」です。指導講師は、特別顧問であった藤田博司先生でした。2007年4月開始の学習テーマは「民主主義社会とメディアの役割」で、「メディアの3機能」や「地方分権と地方自治の問題」を学びました。グループワークの中で、「地方自治の時代」と言われるが、所沢の現実には市議会議員選挙でさえ、市政の情報を正確に市民に伝達するメディアがないことが分かりました。そこで、所沢の行政・市議会などの現状を知り、民主主義をサポートするため市民へ伝えるメディアを目指し、ニックネーム「傍聴席」の活動を2007年7月に開始しました。10月には、2年次の学習を次の11項目に取りまとめて発表しました。

- ①風化している「市議会議員選挙」。
- ②市議選の「情報」は極めて少ない。
- ③現行の「公職選挙法」は今や選挙の阻害要因？
- ④「地方分権」「地方自治」の流れは止まらない。
- ⑤所沢市の「財政」・・・夕張の轍を踏む怖れはないか？
- ⑥所沢市の「行政改革」の現状と課題。
- ⑦「所沢市議会」の現状はどうか？
- ⑧「まちづくり基本条例」の検討が始まっている。
- ⑨市の「情報発信」はどう読まれているか？
- ⑩情報公開制度とパブリック・コメント。
- ⑪地方自治の時代の「市民」と「メディア」。

2014年10月に顧問の藤田先生がご逝去され、ここに謹んで哀悼を表します。先生は、傍聴席の定例会や慰労会によく顔を出され、ざっくばらんな仲間でもありました。特に、ブログに毎月特別寄稿を送っていただき、愛読者も多く惜しまれてなりません。

■ 自治基本条例と議会基本条例の制定

わずか7名で発足した傍聴席ですが、翌年1月には13名、5月には18名と増加しました。これは、倶楽部の第1回講演会が藤田博司先生で、「あの講義をもう一度」との宣伝による出席者120名の影響もありました。

地方分権・地方自治の時代を迎えて、2005年に所沢市は、自治基本条例（まちづくり基本条例）の制定に向けて取組中で、2007年から2年間は市民参加の勉強会が始まりました。行政、市民とともに市議会もこれに取り組みました。「自治の基本は市民が主役である」との提言は、傍聴席の方針と合致し、傍聴席など市民大学の多くの仲間が地方自治に取り組みました。所沢市自治基本条例は、2011年7月に施行されました。

さらに市議会では、自治基本条例の制定に合わせて、議会改革に向けて頑張る議員有志がいました。傍聴席は、先導する議員と共に2008年の特別委員会を毎回のように傍聴して、ブログで発信し、積極的に議会改革を支援しました。議会基本条例は、2009年3月に施行されました。所沢市議会は、全国市町村議会の中で、議会改革度の評価が高く、全国からの見学者が絶えない市議会です。成果の一つは、一般質問時の質問方式が選択制になったことで、多くの議員は一問一答方式で質問を行い、傍聴する市民は分かりやすくなりました。

議会改革に取り組む傍聴席の活動は、河北新報朝刊2010/6/5の「変えよう地方議会 あすの自治」の64番目の記事に掲載されました。また、東京新聞朝刊2011/4/19でも、「彩の国まつりと（第七部身近な争点は、今）議会改革」という記事で取り上げられました。

■ 講演「郊外都市（所沢）は生き残れるか？」

倶楽部とサークルの合同企画で、2011年3月12日午後3時から新所沢東公民館で、広瀬克哉法政大学教授による講演会「郊外都市（所沢）は生き残れるか？」が開催されました。東日本大震災の翌日にもかかわらず、参加者は80人を超えて集まり、帰宅困難だった先生も元気で来られました。廣瀬先生は、多くの市民がイメージしてきた「成長都市・若い都市・財政力ある都市」の所沢

市が、人口成長の頭打ちや高齢者人口の増加や財政面の余裕ゼロなどが予想され、もはや成長都市ではないと話されました。講演の後は、70 数人が残って、ワークショップが開催されました。グループに分かれて意見や質問を取りまとめ、発表を行いました。先生は 30 項目の質問に回答して、全体を総括されました。参加者にとっては、所沢市の将来を考える良い学習会になりました。

■ 狭山ヶ丘中エアコン問題

2012 年 3 月市議会で、突然、藤本市長が東日本大震災後の原発事故を見て、都会の便利さは田舎の犠牲の上に成立したことを自覚し、価値観を変えたと話し、計画された狭山ヶ丘中学校冷房設備予算の削除、申請した国補助金の辞退が、市長の独断で成されたことを市民へ発信した。

同年 6 月市議会は、狭山ヶ丘中 PTA や地域住民の 15,730 人署名付き請願書の提出を受けて、「教育環境の改善を求める決議案」を賛成多数で可決したことを発信しました。

その後も、市議会は、エアコン問題を取り上げ、市長を批判したが、市長は考えを変えませんでした。そこで、2014 年 11 月住民側は 8,400 筆の署名をもって住民投票条例設置を請求し、市長は否決を求めたが、市議会は可決し、2015 年 2 月にエアコン設置の住民投票が行われた。傍聴席は、住民支援のビラを作成し、地域に配布しました。設置賛成が 5.7 万票、反対が 3 万票で住民が勝利しました。

もう一つ、草創期より傍聴席を引率され、市政 watching と議会改革などに熱心に取り組んで来られた本間氏のご逝去を悼み、謹んで哀悼を表します。

■ その他の活動

その他、市政 watching で多くの活動の記録があります。一つだけ紹介します。

2012 年 10 月には、衆議院議員 3 名と市議 36 名へ政務活動費に関するアンケートを行い、衆議院

議員は全員、市議は全 36 名中 34 名の回答を得ました。

■ 現在の活動と今後の展望

活動の一つは、市議会傍聴など市政に関する必要な情報をブログに掲載して、市民へ伝達することです。もう一つは、市政や市議会や市民に関係する条例改正や課題選定に関する学習会を開催して、市民とともに正確な知識習得や意見交換を行い、お互いが自律する市民に育つことです。

戦後民主主義も 70 年を超えてマンネリ化が進み、お任せ民主主義と言われる現代政治はどこに向かうのでしょうか？その上、少子高齢化が進んで年金生活者が増加すると、テレビのニュースを観ず、新聞を読まず、丸 1 日人と話さない社会生活を送る市民が増えて、日本の民主政治は衆愚政治に向かうのでしょうか？

私たちが選んだわけではありませんが、現在の民主政治においては、私たちは主権者、つまり昔の王様になってしまった訳で、現実の政治に責任があることになります。ですから、高齢になったから、頭が働かなくなったから、身体が悪くなったから、というような言い訳は通用しません。

いつでも、どこでも、主権者としての判断が求められ手抜きはできません。手数がかり面倒ですが、正面から向き合わなければならないのです。政治に関心をもって毎日元気よく、メリハリある生活をして、健康で長生きをしましょう。



活きいきシニア福祉の会

■ 設立の経緯

創設期は、市民大学21期の2年次(2015年)に選択した「福祉」のグループワークで「高齢者福祉」について学習を重ね、その時のテーマは、高齢者福祉の問題点と提言＝「介護保険制度は高齢期の生活を支えることができるのか」でした。



(One for All, All for One の精神で!)

■ 21期のグループワークのテーマ

◇高齢者福祉について、現状と今後

自助・互助・近助・共助・公助について

◇施設介護の現状と課題について

- ・特別養護老人ホーム(特養)
- ・介護老人保健施設(老健)
- ・介護療養型医療施設



◇在宅介護について

訪問介護事業者を選定し聞き取り調査

◇要介護となった場合の費用について

(介護保険適用範囲と自己負担について)

◇所沢市の高齢者の日常について

450名のアンケート調査の実施

■ サークルの起ち上げ

このまま、解散するのはモッタイナイとの思いで「福祉」のサークルとして起ち上げ、全員一致でところざわ倶楽部へ一括加入しました。

活動の目的は4つ

1. 高齢者福祉について学習する
2. 高齢者相互扶助の在り方について検討し実践する(自助・互助・近助・共助)
3. 公助・地域福祉について提言する
4. 福祉情報を収集し、分析して広報する

そして楽しみながら親睦を深め輪を広げよう!

◇サークル創設一年目

定例会(月1回)、お互いの元気を確認し合おうという「四方山話」の場・「情報交換」の場となり楽しい“集い”となりました。

◇2年目から「施設見学」と「学習会」の実施

会員は設立時の11名から現在16名です。



(所沢市の医療・介護についての学習会)

■ 高齢化率の高まり＝超高齢社会

高齢者は2025年にピークに、団塊世代といわれるシニアが全員後期高齢者(75歳)となる。現在の倶楽部会員の80%以上がその対象者。



(現行介護保険制度 & その改正点の学習会)

誰でも加齢と共に“老いて行く”現実 は必然です。「長寿(長命)社会がもたらす問題を直視し、元気なうちに来るべき時に備えよう!」

要介護(認知症も含む)の当事者となつてからでは、如何にも遅く、自身では対応できません。



(第1回サークル発表会“百歳元気体操”1コマ)

■ 康寿園(特別養護老人ホーム)見学

要介護者となった時、本人はもとより、家族が希望する施設に入所可能か？その施設の概要は要介護者にとって、環境や介護従事者が適正か、費用は年金生活者が負担可能な範囲か？



この時点で、特養入所希望の待機者が、全国では52万人！入所を待っている間に最期を迎える方も多いと聞きました。



(施設長の説明を聞くと“現実の厳しさ”が)

■ レジデンシャル小手指 Sakura(サ・高・住)

サービス付き高齢者向け住宅は、近年注目されている施設ということで見学。



自立から要介護の方々が清潔感にあふれた環境で、様々なサービスを受けながら生活。このような環境で、ヘルパーやケアマネジャー、そして近隣医療との連携のネットワークがあり、素晴らしい！負担可能かが最大の問題か？

■ さくら会館(地域交流室)使用登録申請

「活いきシニア福祉」のサークルは、小手指に一つの拠点として地域交流室を活用させて頂くことになりました。(会員の藤吉さんがご尽力)



(施設利用者さんの食事の体験)

■ 所沢社会福祉協議会との連携を図る

＜ところ WITH プラン H27年度～H32年度＞

誰もが、健やかに・自分らしく・支え合う・心優しいまちづくり！身近な地域で、「孤立しない・孤立させない」をモットーに輪を広げる活動に参加。

当サークル会員が、ささやかなりとも、そのきっかけとなればとの思いで頑張っています。現在、会員の中で、所沢市の地域福祉活動推進会議委員 1 名・地域福祉サポーター 11 名・地域福祉サポーター世話役 2 名が、そのさきがけとなるべく役割を果たしているところです。



(所沢地域福祉サポーター養成講座に参加)

誰もが何れ一人になります。病に倒れる事も、要介護者となることも想定内です。自助努力は勿論。互助・近助・共助の力に！一人でも多くの方にご参加頂ければと思います。

所沢シニア世代地域デビュー支援の会

私たちは定年退職後のシニア世代が、地域で社会参加活動へ第一歩を踏み出すためのサポート活動を行っています。「生きいきと元気なマチづくり」、「仲間づくり」「健康増進」につながるシニア世代の『地域デビュー』を以下の〈基本的な考え方〉に基づいて応援しています。

■ 設立の経緯

本サークルは、市民大学 20 期の 2 年次に「地方自治」グループで法政大学教授廣瀬克哉先生の指導のもと「さらなる元気な所沢を創るために～元気高齢者の社会参加を探ろう～」をテーマに学習し、そのメンバーで立ち上げました。

私たちが住む所沢市は、少子高齢化が進むなかで「大きな曲がり角」にあり、将来には地域によってゴースタウン化もありうるとの危機感のなかで、高齢者の「健康寿命の延伸」「元気高齢者の社会参加」が「元気なマチづくり」の原点であると考えました。

発足日 2014 年 1 月 30 日

母 体 所沢市民大学第 18 期、20 期
「地方自治有志で結成」

加入組織 ところざわ倶楽部
所沢市民活動支援センター

付属組織 SP:スマイル・パイレーツ
(チアダンスチーム)

■ 基本的な考え方

◇わたしたちシニア世代がめざすシニアライフとは。

- ・定年後も健康で豊かな生きがいのある生活
- ・シニア世代の社会参加による
元気なマチづくり
- ・仲間どうしの助け合い、支え合いで
健康寿命の延伸

◇こんなサポートを考えています。

- ・シニア向けセカンドライフ講座(生涯学習)
の開催・紹介
- ・セカンドライフを高める講演会・活動支援
イベント企画
- ・地域ボランティア団体、サークル紹介、
協働

■ これまでの活動

◇学習活動(出前講座)

- ・市民が互いに支え合う「地域ネットワーク」
を考えよう
(2014 年 5 月 13 日)コミュニティ推進課
- ・高齢者の社会活動が可能となる環境整備を
図る為に
(2014 年 7 月 15 日)高齢者支援課
- ・「子どもは社会全体で育む」という視点で、
みんなで支える環境整備を考えよう
(2014 年 9 月 9 日)こども支援課
- ・市民参加による“みどり”を支えるサポート
体制を探ろう
(2014 年 10 月 21 日)みどり自然課

◇学習活動(自前講座)

- ・高齢者が参加できる社会に
(2015 年 10 月 17 日)講師 斎藤正武
- ・シンポジウム シニア世代 なんでも塾
(「キラキラ輝くシニアライフ」を過ごしてい
らっしゃいますか?)



- ・第1回 市民講座修了後のネクストライを考える(2016年10月22日)

〈ご協力いただいたサークル〉

- ・ふるさと公園応援隊
- ・グリーン・フォレスト・ネットワーク所沢
- ・秩父学園みどりの応援隊
- ・新所沢東公民館日本語教室
- ・ほっとふる柳瀬・朗読グループ“わ”
- ・スマイル・パイレーツ

〈コメンテーター〉

- ・早稲田大学基幹理工学部講師 大堀聰氏
- ・所沢社会福祉協議会 佐藤文氏
- ・所沢市民活動支援センター 細田和彦氏

- ・第2回 これからのシニアライフを考えよう(2017年4月22日)

〈コメンテーター〉

- ・所沢社会福祉協議会 佐藤文氏・山江孝子氏・岡村淳子氏
- ・大田区社会教育委員会 栗原香菜氏
- ・ゴールデン・パイレーツ 坂上琴音氏

- ・第3回 あなたのめざすシニアライフとは(企画検討中)

◇地域活動

- ・ところざわ倶楽部

第4回文化祭出演 シニアのためのファッションショー(2015年5月29日)

第5回文化祭出演 シニアのためのチアダンス(2016年6月8日)

- ・所沢市民活動支援センター

市民活動支援センターまつり

市民活動見本市・パネル展参加

市民活動支援センター連絡会議

市民活動支援センター団体交流会

◇スマイル・パイレーツ(SP)の発足

(チアダンスチーム)

ところざわ倶楽部の文化祭出演の催し物についての話し合いの中から「スマイル・パイレーツ」

は誕生しました(2015年10月)。

本サークルの若者の会員に全日本クラスの「ゴールデン・パイレーツ」のメンバーがいて、コーチとして指導していただけることになりました。「チアダンス」って若い人がするものと思っていたのですが、子どもから高齢者まで幅広く楽しむことができます。健康で生きいきと生きがいのある生活を、先ずわたしたちが実践してこそ「支援の会」と、毎月2回、厳しいレッスンに挑戦しています。



- ・市民文化フェア(4月8日)航空公園の「よってけステージ」に出演。
- ・市民活動まつり(9月)に参加。
- ・中央公民館まつり(11月)に出演。

■ これからの活動

本会はスタートして3年がたちます。毎月開催の定例会でかんかんがくがく討論を重ねてきております。〈これからの活動〉について、より具体的な取り組みを行っていききたいと思います。

〈具体的取り組み〉

◇シニア相談窓口の開設:学習活動、ボランティア活動などのインフォメーションを開設し、社会参加をより円滑にサポートする。

◇市民大学との連携:特に「地方自治」グループとの交流を深める。

◇なんでも塾の開講:広く所沢市民へ働きかけシニア世代のニーズに対応できる交流をはかる。

◇シニア・サロンの開設:シニアのための“たまり場”でなんでも語り合う。

脳活サークル

70歳を超えると50%の方が、MCI(軽度認知障害)と言われている時代です。ひょっとすると皆さんもすでにMCIかもしれません。脳活サークルは会員自身が「認知症にならない生活」を身に付けることを目的としています。また「知らないより知っていると安心！家族に何があっても安心！」など認知症についての知識や地域の情報もえられます。

脳活サークルに見学に来て「認知症にならない方法」をさっそく実践してみても如何でしょうか！！

例会終了後の雑談会



■ サークルの概要

母体:18 期、20 期「脳の科学」グループの有志
2014 年(平成 26 年)発足

■ 会の目的(会則第3条)

本会は、会員相互の親睦・研鑽を旨とし、認知症にならない私生活を身に着けること」を目的として、テクテク(歩くこと、運動すること)、ニコニコ(笑うこと)、カミカミ(よく噛んで食べること)、ドキドキ(感動すること、青春すること)を実践すること。

■ 認知症にならない方法(例会で実践しています)

1. 予防体操:平野公子氏
2. 笑いヨガ:所沢千笑氏
3. デュアルタスク方式での料理教室
4. 認知機能アップ「回想法」:バス旅行や郊外散策に関連して
5. 近郊の散策の計画をみんなで立てて、良い案を実施する
6. 定例会終了後の雑談会
7. タッピングタッチ
8. アロマセラピーで認知症予防
9. 会員による「認知症予防法」の発表会
10. オイルタッチの実践
11. 認知症の診断テストの方法を検討する 等々

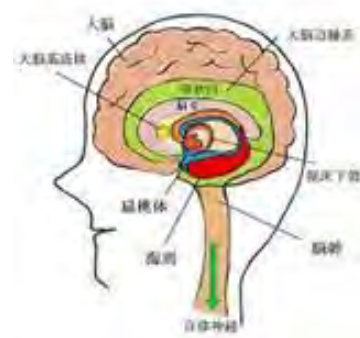


認知症予防体操



■ 認知症の介護などに関する勉強 =所沢市関連団体などとの連携を模索=

1. 認知症サポーター養成講座を受けて「認知症サポーター」になる
所沢市高齢者支援課、社会福祉協議会
2. 認知症に関する身近な問題を考える:
ブーゲンビリア(認知症全国相談機関) 泉志津子代表理事
3. オレンジサロンを知ること、参加すること:
森本剛:オレンジサロン運営責任者
4. 「ピアところ」との連携:
早稲田大学人間科学学術院教授:加瀬裕子先生ほか
5. 認知症関連DVD鑑賞 等々



■ 活動の写真(予防に重点)

デュアルタスク方式での薬膳料理



笑いヨガ:所沢千笑氏の指導



忘年会:トコトコバンドとフラダンス



新年会:川越初詣といも膳料理



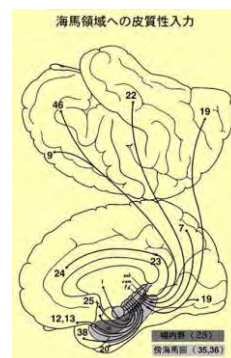
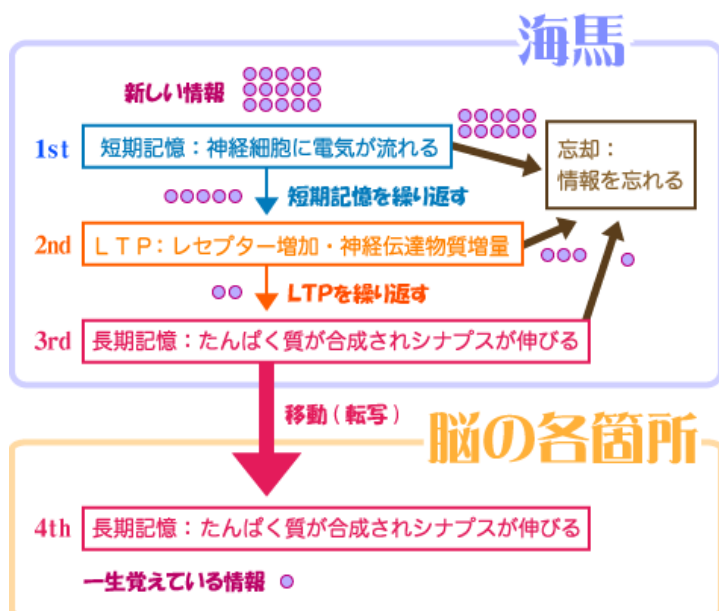
横浜港が見える公園と赤レンガ倉庫散策



オイルタッチ(ハンド・フットマッサージ)



■ 記憶の構造参考(短期記憶は海馬で形成)



北欧の会

北欧の会は結成してから9年目を迎えている。サークルの歩みを残されている写真をもとに印象深い例会のテーマを中心に紹介することにした。

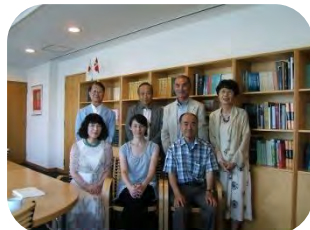
■ 平成21年

市民大学15期日本経済の有志がサークル勧誘会で呼びかけ7人の会員が集まり発足する。北欧に関する著作やビデオ DVD から学ぶ。北欧を楽しむ「料理」、「マッチ売りの少女」の朗読、北欧旅行者の話など。



■ 平成22年

身近なデンマーク「陶磁器、医薬品」、「歴史」など。「北欧の経済がなぜ強いのか」「環境問題所沢との比較」デンマークの教育福祉の視察旅行の話し。デンマーク大使館の訪問とデンマーク料理の会食、人形姫の朗読など。



■ 平成23年

スウェーデン大使館の訪問と北欧料理店「リラ・ダーラナ」で会食。スウェーデン映画「マイライフ アズ ア ドッグ」の DVD 観賞、「スウェー

デンに学ぶ持続可能な社会の在り方」など。



■ 平成24年

倶楽部主催の中能孝則氏「北欧に学ぶ福祉社会」の講演会の担当。フィンランドに留学した高校生阿部譲さんの体験談を聞く。子ども幸福度世界一オランダの秘密、DVD「かもめ食堂」の鑑賞など。



■ 平成25年

北欧旅行、ネパール旅行の報告。「北欧モデル」について。スウェーデンケアを取り入れた介護施設「舞浜倶楽部」を見学。老人保健施設「さんとめ」見学。「北欧旅行エッセイ」の朗読など。



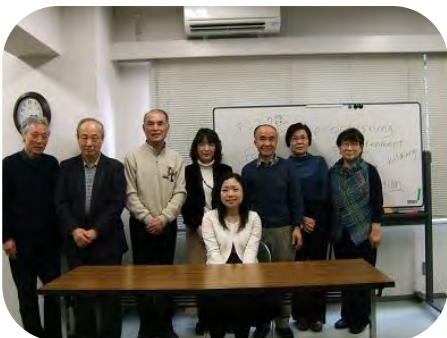
■ 平成26年

アンデルセン「みにくいアヒルの子」と宮沢賢治「よだかの星」の読み比べ。スウェーデンの近現代史、デンマークの高齢者福祉。映画鑑賞「ネイチャー」と北欧料理店「アルトゴット」で会食。欧州のエネルギーシフトについて、「北欧留学と東海大学北欧学科に学んで」学生菅原さんのお話。先端技術館 TEPIA 見学と会食。



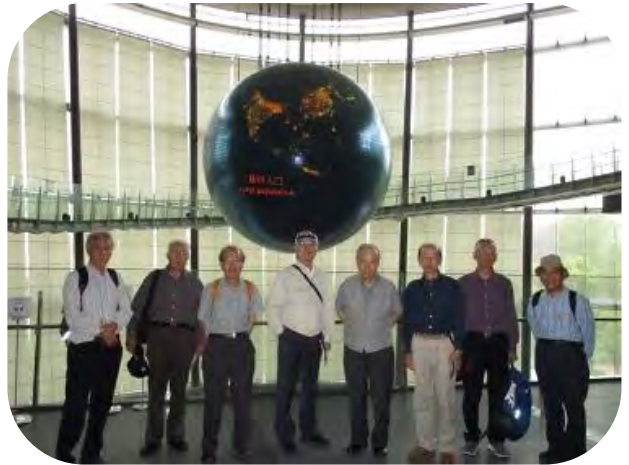
■ 平成27年

聖心女子大学公開講座「北欧型生涯学習と子育て」の受講とティータイム。アクティブシチズンシップとIUについて。DVD 観賞「神話の森に行く」「世界一幸せな国デンマークの真実を探る」「アンデルセン童話に隠された秘話」など。



■ 平成28年

DVD 観賞「ムンク自然を賞く叫びの謎」「ホスピタルアートの聖地に行く」「ノーベル賞の舞台裏」「新しいエネルギーを求めて」「大人の街歩き」「北欧の世界遺産」など。日本科学未来館の見学（地球環境に学ぶと合同）



■ 平成29年

DVD 観賞「チェルノブイリからフクシマへ」「7人の憲法研究会による憲法草案」、中能孝則氏の講演会の内容の紹介など。尚伊藤美好氏の「パンケーキの国で」子どもたちと見たデンマークを例会で輪読しました。（14回）

最後にサークル結成から今日までやってくることが出来たのは会員（退会された会員を含めて）の皆さんのご協力の賜物です。たくさんの学びと体験が出来たことを深く感謝申し上げたいと思います。

葵の会

■ 創設期



葵の会は市民大学 16 期 2 年次で古典文学、古典芸能「能と源氏物語」を学んだメンバー 10 名が立ち上げたサークルです。市民大学では、源氏物語

1000 年という事でマスコミでも大きな話題になっていて、古典に触れてみることも意義あるのではという考えで企画されました。講師は武蔵野大学教授、能楽センター長を務められた羽田昶先生で、グループワークの発表に向け、「源氏物語」演目の能を何度も何度も鑑賞したので、サークル名も「葵の会」と命名いたしました。

羽田先生が市民大学 18 期、20 期でも教えられた関係で 18 期、20 期のメンバーも加入、さらに 22 期では他の講座を選択された方が 7 名も入会、現在 31 名の会員で活動しています。

会則の「豊かな潤いのあるセカンドライフを送ろう！」というコンセプトで、古典文学の講座を中心に、日本の伝統芸能、能・歌舞伎・狂言等の鑑賞や、史跡巡り、文学散歩、秩父札所巡り、暑気払い等を通じ、懇親を深め楽しく活動しています。



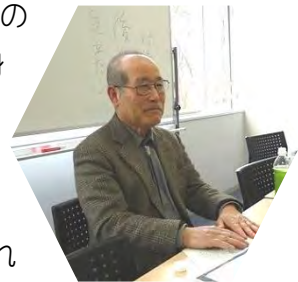
■ 小川先生と歩んだ古典講座 8 年

当初、サークルをどのように運営していくのが試行錯誤、16 期は平成 21 年 11 月修了したものの

平成	古典講座(回数)
22 年	平家物語(1 回) 万葉集(6 回)
23 年	源氏物語(8 回)
24 年	平家物語(9 回)
25 年	古事記(10 回)
26 年	万葉集(6 回) 井原西鶴傑作選(5 回)
27 年	徒然草(6 回) 宮沢賢治(4 回)
28 年	方丈記(6 回) 太平記(4 回)
29 年	竹取物語(5 回) 枕草子(6 回)

何から始めたらいいか苦慮し、古典の学習を中心にして行こうという事で、活動を始めたのは平成 22 年 3 月からでした。

思えば葵の会が今日まで活動できたことは、講師小川達雄先生との出会いが大きかったと思います。先生は元高校の講師で、宮沢賢治出身の盛岡高等農林を卒業され、高校の教師を続けながら賢治の研究をされていました。われわれ高齢者に担当教師の如く親身になって接され、8 年もの長きにわたり古文の手ほどきをしていただきました。本年 6 月亡くなりましたが、われわれの恩師で誠に残念でありました。



代わって本年 2 月から「竹取物語」を、盛岡での小川先生の教え子である及川道之秋草短期大学教授に教わっています。

小川先生の第 1 回目の講義は「敦盛・平家琵琶と宮沢賢治」というタイトルの講義で、平家物語、敦盛の一谷合戦のシーンを哀調帯びた琵琶で紹介され、感銘を受けた事を記憶しています。そして宮沢賢治もこの琵琶を愛好していたという話をされました。以来 8 年の歳月が流れ、代表的な日本の古典を 10 冊も学んだことになりましたが老後生きる我々の心の糧となっています。

■ 古典講座8年の軌跡

◇平成22年～23年



平成22年、第1回は5月に平家物語—敦盛・平家琵琶と宮沢賢治(前述)。6月からは、5回にわたり「万葉集」を学ぶ。万葉の代表的な歌人、柿本人麻呂、山部赤人、大伴旅人、山上憶良等。懐かしくも新鮮でした。

23年度はわれわれが学んできたテーマ「源氏物語」1年間(8回)の講義。当時のユニークな発音や語り口についての話を聞く。また桐壺の巻、空蝉の巻、夕顔の巻等ポイントとなる巻を学ぶ。

◇平成24年～25年



24年度は「平家物語」(9回講座)、25年度は「古事記」(10回講座)。平家物語はNHK大河ドラマ「平清盛」放映中で、実盛、忠盛の都落ち、木曾義仲の最後、那須与一の活躍など多彩な人間模様が描かれていて、古典の面白さを感じた。また、古事記も編纂1300年という事で記念すべき年でした。

◇平成26年

古典を学び始めて4年、日本人の心の原点、情緒がわかり始めた時期であった。前半は再度万葉集を学習。万葉歌人の叙景歌、都への憧れ、庶民の哀歌など、万葉人の心、抒情を描いた歌がテーマであった。後半7月からは江戸文学「井原西鶴傑作選」。日本永代蔵、世間胸算用等、古文とはいえ、商人、庶民の世界が描かれ、ぐっと現代に近づき、解かり易く、親しめました。

◇平成27年～28年

27年、28年は随筆文学の傑作「徒然草」(6回)「方丈記」(6回)を学ぶ。兼好の留まることなく移りゆく無常観、鴨長明の無常の世に生きる人々のはかなさが、多くの日本人を引き付けるのだと思わされました。

他に小川先生ご専門の「宮沢賢治秩父に行く」(4回)では、実際に秩父に行き賢治の足跡を辿りました。また川上義正先生による「太平記」は小手指が原の古戦場、鎌倉街道など武蔵野が舞台になっており興味深かった。

◇平成29年度

小川先生に代わり及川道之先生をお招きして2月より「竹取物語」(5回)を開始。若い気鋭の先生で、9月からは3大随筆の一つ、枕草子を及川先生に学びました。



■ 親睦行事



葵の会では年間4回ほど会員相互の懇親を深めるため、能楽鑑賞や文学散歩、史跡、博物館の見学、バス旅行、ハイキングなどを行っています。



楽悠クラブ

人生のビタミン剤として効果絶大な「音楽」を、メンバーと共に悠々と味わい、音楽鑑賞を通じて会員相互の親睦と交流を図っています。



■ 沿革

楽悠クラブは、14期2年次の音楽グループの仲間がところざわ倶楽部の発足時に立ち上げたサークルで、当初は“楽々くらぶ”（音楽を楽しむ）という名称でスタートしました。

14期2年次の音楽講座はドイツ歌曲とオペラを中心に学ぶ藤田先生の講座で、28名という多くのメンバーが集まり、シューベルトの「冬の旅」を先生の解説と詩の朗読付きで聴き、そしてワーグナーの「タンホイザー」DVDを、ストーリーの解説から見どころ聴きどころをじっくりと説明していただきながら、授業時間は殆どを鑑賞に費やす楽しい講座でした。オペラは総合芸術であり、音楽・歌手・演出などを通じ、クラシック音楽の歴史などを包含し、人間の歴史・理解に繋がるとの観点です。お蔭で多くのメンバーがオペラの魅力にとりつかれ、卒業後も鑑賞する場を作るためにサークルを結成しました。

その後、15期から22期までの卒業仲間を迎えて、現在の登録者数は40名です。

■ 月例会

月1回、原則として火曜日の午後に、中央公民館3階8・9号室にて実施しており、参加・不参加の事前届出は不要で自由としています。

概ね20～25人位が集まって、DVDやLD鑑賞を「プロジェクターによる大画面映像と迫力ある音

響」により臨場感を楽しんでいます。鑑賞が主体であまり話しあう機会が少ないため、発声練習と称して皆で一斉に声を出してから、例会を始めしています。

鑑賞演目については、全員からの希望を募った後、4班(各班10名程度)毎に取り纏めたものを、毎年12月開催の月例会・総会時に、次年度・年間活動計画として決定しています。

その他、オペラやオーケストラの公演、その他のコンサートに参加したり、ところざわ倶楽部文化祭では、有志を募って混声合唱曲を練習し、その成果を披露したりしています。

なお、例会ではオペラ鑑賞が比較的多く、最初の頃は有名な作品を一通り鑑賞しようと、ワーグナー、ヴェルディ、プッチーニなどの作品を多く鑑賞しましたが、だんだん気楽に楽しめるオペレッタのような作品も多く取り入れるようになってきました。

ワーグナーの作品は重厚でストーリーの進行が遅く、長時間かかるので鑑賞も疲れますが、やはりオペラの真髄を味わわせてくれます。

ヴェルディやプッチーニの作品は分かりやすいドラマ進行と美しい音楽に感情が刺激され、つい涙してしまいます。一方、「こうもり」や「セヴィリアの理髪師」などはオペレッタといわれる肩の凝らない喜劇風の楽しい作品で、鑑賞中にも拍手や笑いが飛び交います。

このような楽しい作品も多く取り入れるほか、ミュージカル、ジャズ、ポピュラー、各国の民謡、音楽映画などにも範囲を広げて楽しんでいます。

■ 今後

新規入会は大歓迎！！

いろいろな音楽を悠々と楽しむことが私達に大きな活力を与えてくれると確信しており、メンバー全員が健康を保持して、楽しいサークル活動を続けていくことを願っています。

■ 活動事例

◇これまでに鑑賞したオペラ、音楽映画の一部

これまでに鑑賞したオペラ、音楽映画の一部

タンホイザー (ワグナー)	神々の黄昏 (ワグナー)	ニュールンベルグの名歌手 (ワグナー)
パルジファル (ワグナー)	ジークフリード (ワグナー)	ローエングリン (ワグナー)
ラインの黄金 (ワグナー)	リゴレット (ヴェルディ)	トロバトーレ (ヴェルディ)
椿姫 (ヴェルディ)	オテロ (ヴェルディ)	アイーダ (ヴェルディ)
ラ・ボエーム (プッチーニ)	蝶々夫人 (プッチーニ)	トゥーランドット (プッチーニ)
トスカ (プッチーニ)	ロメオとジュリエット (ダノ)	ヘンゼルとグレーテル (アンバーディンク)
カルメン (ビゼー)	タイース (マスネ)	セヴィリアの理髪師 (ロッシーニ)
ルチア (ドニゼッティ)	連隊の娘 (ドニゼッティ)	ドン・ジョバンニ (モーツァルト)
魔笛 (モーツァルト)	フィガロの結婚 (モーツァルト)	舊儀の騎士 (リヒャルト・シュトラウス)
こうもり (ヨハン・シュトラウス)	仮面舞踏会 (ヨハン・シュトラウス)	ウィーン気質 (ヨハン・シュトラウス)
野ばら (映画)	菩提樹 (映画)	サウンド・オブ・ミュージック (映画)



◇都民芸術フェスティバル(2月):

N 響、読売日響、日フィル等のオーケストラと著名な音楽家による演奏がプログラムされており、東京芸術劇場で鑑賞。

◇藤田明先生の音楽講義(6月): (2015年)

「演奏表現と鑑賞:主にシューベルトの“冬の旅”について」を受講。楽悠クラブ以外の参加を含め 57 名と盛況。

◇オーケストラの日(3月):

首都圏のオーケストラが一同に会する様々なイベントがあり、気軽にクラシック音楽を楽しむ特別な日。

◇懇親会:

1月に新年会、8月に暑気払い会。

2015年の暑気払い会では下山さんも参加され、楽悠クラブメンバーも参加した4月のスペイン旅行の話、スペインの文化・歴史についてスペインの興味深いお話で盛況。

◇ピアノコンサート(4月): (2015年)

楽悠クラブでのファンが多い“スペインの心を持つピアニスト”と呼ばれる下山静香さんのピアノコンサートを中央公民館音楽室でモーツァルト、ショパン、ミニョーネ、ドビュッシー、サティの演奏曲を鑑賞。

◇ところざわ倶楽部文化祭(5月):

2013年から4年連続で「楽悠クラブ混声合唱団」として参加。2015年は楽悠クラブ17名とサークルを越えた有志12名で、混声合唱7曲に加えてピアノ連弾演奏、琴、マンドリン、アルトサックスの演奏を披露。期間限定活動だが参加者の達成感が高く、指導者須山久仁子氏の熱意の賜物と感謝。



ドラマティック・カンパニー

ドラマティック・カンパニー9年の歩み

笠松泰洋先生と共に

■ 生い立ち

ドラマティック・カンパニーは市民大学15期生が2009年1月に立ち上げた戯曲の朗読サークルです。主にシェイクスピアの作品を中心として活動しています。その名前は大多数の人が知っていますが、作品はというと読んだ事のある人はそう多くはないでしょう。実際彼の戯曲にはト書きがある訳でもなく、独白なのか誰かに向かって言っているのか、なかなか理解できません。

でも私たちは素晴らしい水先案内人に出会いました。作曲家の笠松泰洋先生です。

ご存知の通り、所沢市民大学にとってかけがえない先生です。特に最近では作曲家として多忙を極め、「時間をどう調整されているのだろう」「睡眠時間はとれているのだろうか」と思うほどです。それでもドラカンの活動日には元気な姿を見せてくださり、嫌な顔一つせず、私達の焦点のずれた質問や以前回答してくださった質問にも丁寧に答えてくださるのです。

何度もドラカンの紹介文には載せていますが、とにかく先生のお話はおもしろい。作品にまつわる時代背景、風俗・習慣、宗教観、そこから派生する様々なお話、時には作品から離れて何処かに行ってしまいます。そう、ここで声を大にして言いたいのは、笠松先生と一緒に読めば「シェイクスピア、恐れるに足らず」「年齢に関係なく楽しめる」という事です。

■ 活動内容

<読んだ作品の紹介>

◇四大悲劇

「ハムレット」「オセロー」「リア王」
「マクベス」

◇その他の悲劇

「タイタス・アンドロニカス」
「ロミオとジュリエット」
「アントニーとクレオパトラ」

◇喜劇

「夏の夜の夢」「間違いの喜劇」「十二夜」
「ヴェニスの商人」「お気に召すまま」
「ウィンザーの陽気な女房たち」

◇歴史劇

「リチャード三世」「ヘンリー六世」

◇ロマンス劇 「テンペスト」

(以上 シェイクスピア16作品…分類は河合祥一郎氏による)

◇ギリシャ劇 「トロイアの女たち」

<発表した作品の紹介>

◇2009年6月7日 生涯学習推進センター
オープン記念 「リア王」

◇2010年4月4日 中央公民館
オープン記念 「オセロー」

◇2011年11月17日 ところざわ倶楽部総会
「ヴェニスの商人」

◇2012年 ところざわ倶楽部第1回文化祭
「十二夜」

◇2013年 ところざわ倶楽部第2回文化祭
「アントニーとクレオパトラ」

◇2014年 ところざわ倶楽部第3回文化祭
「トロイアの女たち」

◇2015年 ところざわ倶楽部第4回文化祭
「ヘンリー六世」

◇2016年 ところざわ倶楽部第5回文化祭
「ウィンザーの陽気な女房たち」

◇2017年 ところざわ倶楽部第2回サークル
発表会 「リア王」

そうそうたる作品がズラッと並んでいます。ここに挙げた全作品に関わった人は、立ち上げメンバーの中で在籍している4名です。そこで新たなメンバーも増えたことでもあり(現在13名)、前に読んだ作品をもう一度読み返してみようという方向で話がすすんでいます。

先生ご自身も読み返すたびに新たな発見がある、とおっしゃっています。

「ところざわ倶楽部のサークル活動はメンバー主体によるもので、外部に依存するものではない」と言う声もあるようですが、運営方法は当然サークルによって違います。素人集団だけではやりたくてもできない事があります。そこに知識と見識を備えた良き指導者が現れ教えてくださるのであれば、そのサークルは何て幸運なのでしょう！

私達は笠松先生に出会い、その人柄に惹かれてドラマティック・カンパニーというサークルを作ることができました。

また私達には別の楽しみもあります。それはドラカンお気に入りの（特に先生が）お店で開かれる昼食会です。そのお店は私達の為に貸し切りしてくれます。そこで美味しいイタリアン料理を食べ、飲み、おしゃべりをし、そして決定打は先生のピアノ即興演奏！なんとまあ贅沢な時間でしょう。



今年は、ところざわ倶楽部の創立 10 周年記念行事として9月18日（祝日）に、笠松先生台本構成・作曲の音楽朗読劇「ハーメルンの笛吹きおとこ」が所沢市民文化センターミューズで上演されました。

オリエンテーションでは45人の地元の子供達が先生の笑顔とピアノのリードであっという間に役者になってしまいました。

地元の子供達が出演したこの舞台は、素晴らしい作品に仕上がり大好評でした。当サークルにとっても記念すべき年になりました。

■ これから

これからも、誰かしらが持ち込むチョコレートを食べながら、時には「非情な王」に、時には「可憐な姫」に、時には「妖精」にと、Dramatic に Romantic に Fantastic に戯曲の朗読を続けたいと思います。



<先生を囲んでメンバー全員>



<「リア王」練習風景>



< かんぱ〜い🍷 >

懐かしの映画・鑑賞会

■ はじまりは？

市民大学 19 期の 2 年次、選択した「所沢の元気なまちづくり」テーマ・サークルです。グループワーク発表会も寸劇にて所沢を紹介する試みを行った仲間たち 14 名と企画委員 2 名の 16 名。

この仲間の結束を修了後も何とか継続していける事を考えて、ところざわ倶楽部に活動の拠点を置きました。その名も「懐かしの映画・鑑賞会」新規サークルの発足です。



GW:「所沢駅西口開発問題」の発表

平成 24 年 11 月、当時のところざわ倶楽部には我々の様な娯楽鑑賞型サークルは存在しておりませんでした。会長はじめ、役員の方々の親心での入会参加も受け、当初 17 名会員で活動を開始致しました。現在も順調に会員を増やし、50 名を超えるサークルに成長しております。

■ サークル活動のコンセプト(概念)

『記憶の交流点』と『一笑一若』

あの時、あの時代の記憶や思い出が今この時の印象と…人それぞれが遭遇した「時の違い」、「共有する話題」その交差点や交流点そこが我がサークルではないでしょうか。

上映する作品を題材に笑い、涙した。また当時とは違う感情で作品と対面する。このきっかけが「ひとつの笑いで、ひとつ若くなる」。

誰もがもう一度観たいと思っている懐かしき良き時代の映画を大きなスクリーンで、多くの皆さんと鑑賞する。

それぞれが重ねて来た人生の中の一片、映画を通して語り合う…楽しいひと時ではないでしょうか。アットホームな空間で、お互いの親睦を深めるサークルとなれればと考えて活動しております。毎回上映の待ち時間に女性達が所沢の風習を守って、温かい狭山茶で接待してくれます。心が和みます。



GW:「ホール大佐を囲んで」

■ 活動経過

◇上映会

平成 24 年 11 月初上映作品 邦画「好人好日」笠智衆・岩下志麻 共演<1961 年松竹>でした。

今年(H29 年)11 月で 5 年となり、上映回数も 7 月末で 86 回を数えます。年間、20 回程度の上映会を開催予定です。今年 9 月から後半部、S25 年作品「東京キッド」美空ひばり主演で始まります。



「東京キッド」美空ひばり

今後も、邦画・洋画を問わず、いろいろな分野の作品を観ていきたい。

◇上映会の“めだま”として

日々の忙しさに忘れがちな「暮らしを彩る歳時記」、年 5 回程度開催しています。

1 月…繭玉飾り 3 月…桃の節句 5 月…端午の節句

7 月…そうめんパーティー(七夕飾り)

10 月…十三夜又は十五夜飾り

特に、3月の桃の節句には、男性会員が女性会員を『お・も・て・な・し』する「男の料理」を担当します。例年、手作りの美味しい料理“手打ちうどん”を中心に、テーブル狭しと並べられ、食事をしながら自然と会話がはずみます。

「暮らしを彩る歳時記」の写真集



◇課外上映会へ挑戦

2年前から、公民館での上映会から、外への上映会無声映画・女性弁士付き上映会に参加しております。川越・スカラ座にてチャップリンや昭和の初めの無声映画、七色の声と歯切れのよい語りの熱演を楽しんでいます。



■ 今後の方向性

まだ、5年足らずのサークルですが、会員皆さんで盛り上げていくサークルです。新人会員でも即実行部隊となり行動しており、それが大変良き活動になっています。

上映の貯蔵作品として、その数は邦画:498作品、洋画:276作品あります。

まだまだ、会員を飽きさせない、上映作品を提供していきます。



「ハルキ女流弁士と新垣隆ピアノ演奏」

野老澤の歴史をたのしむ会

■ 創設期

平成 21 年「所沢飛行場 100 年」発表時の第16期市民大学所沢市史グループの有志が立ち上げました。最初から多数の会員が集まり、その後も期毎の修了生の加入があり、35 名前後の大きなサークル(以下、会とする)として8年目を迎えました。

活動初めの平成 22 年は設立に関わる討議に多くの時間を割き、会の目的を「所沢市史の多面的な学びを通して、人との交流を深め、たのしくわが町の歴史とロマンに触れる」と決めました。

そして、会の運営と活動目標を ・年毎に研究テーマを決める。 ・学びは所沢市史にウエイトを置きつつも限定せず、所沢に関わりのある近隣地域の歴史事象や歴史事物に対象を拡大する。 ・近現代の所沢に影響を与えた人やモノを学ぶ。 ・所沢市での地産地消・食文化、現代の動きをも対象とする。 ・多面的な学びを通して会員相互の理解と親睦をはかるとしました。

■ これまでの活動(8 年間合計の活動約 150 回)

活動の主要なスタイルとしては、歴史の見聞を広める史跡・文化財・資料館「見学」、所沢の歴史に関わりのある「探訪」、大学教授・講師を囲んでの「座談会・講話」、所沢の食文化・行事・現代を知る「体験」、「工場見学とバス歴史視察の旅」、納涼と納めの「懇親会」などで、年度毎、会員の希望を大切に、新たな活動を加えてきました。

体制が整った 2 年目以降は年ほぼ 20 回以上の活動を、主体的に関わる担当者を特定の会員に片寄らないよう配慮しつつ実施してきました。

■ 活動の内容…航空の町・所沢を出発！

◇離陸期(平成 22 年、23 年) 活動28回

まずは、会の名称通り“足元の歴史”を重視して 9 割は所沢市内の「見学や散策」、食の「体験」、そして2年間で 3 回の「講話」などでした。

特に、この時期にその後シリーズ的に企画された活動の礎となるヒントや多くの市内情報を蓄積する事となります。当時の生涯学習推進センタ

ー木村立彦講師の「講話」は「地名の話」が最初でした。その後も「武蔵野話」「江戸期の所沢地域の領主と支配」等の「講話」を受け、市史へ興味・関心を高めていく良い刺激になっています。

市内では唯一の糀谷八幡神社の流鏑馬神事では見学と騎射の体験をしました。法華寺の「ほうろく灸」も土用丑の日の珍しい行事でした。

◇上昇期(平成 24 年、25 年) 活動 44 回

この期は山本さん、戸田さんが代表となり、女性幹事とともに主体的に活動を深めてきました。



24 年から所沢の歴史との関連で他の地域に出掛ける「シリーズ活動」を開始しました。

一つ目は「鎌倉街道を歩く」活動です。嵐山史跡の博物館企画展“鎌倉街道をゆく”を見学したうえで、北へ入曽から武蔵嵐山までの上道を歩き、25 年にかけて 2 年間 4 回の活動をしました。

二つ目は所沢の寺院をふくむ「武蔵野三十三観音霊場巡礼」の活動です。この 2 年間で 11 回かけて巡拝、結願までの活動でした。

三つ目は 24 年秋から「軽便鉄道」の旧跡を確認する活動を年1回ペースで行いました。

四つ目は22年の荒幡富士散策から始まり、25年から富士信仰(講)で築かれた東京近郊に多くある「富士塚巡り」を開始し、年 2 回富士塚を6～8か所登頂しました。

以上のような活動とともに、市内「探訪」では北野天神の本殿内まで見学をしました。「食文化体験」では里芋だんご作りに挑戦するなど様々

な活動に意欲的に取り組んだ上昇期でした。

この時期から恒例となった明治大学名誉教授渡辺隆喜先生を囲む座談会や高橋玄洋先生の講話などもあり、固くなりがちな歴史の見方を鍛え直される思いでした。また、この頃、福祉バスを利用した歴史散策や見学を活動に加えました。



◇安定期①(26年、27年) 活動 39 回

上昇期に始まった「鎌倉街道」歩きは、所沢から鎌倉を目指して歩く活動に入りました。それに先立ってその歴史的背景を岩田先生から学びました。前期から始まった「富士塚」「軽便鉄道」などのシリーズ活動はほぼ年2回活動する慣行が固まってきました。



26年から始まったシリーズが水に苦しんだ所沢三富新田の開拓を想起させる「玉川上水」を歩く活動で、羽村取水堰から四谷の大木戸までの道のりを28年まで 5 回で踏破しました。26 年からは狭山丘陵をほぼ一周する「狭山三十三観音霊場巡礼」シリーズを実施しました。巡拝し、「般若心経」を全員で一斉に唱える活動でした。

第3回の文化祭では「安来節」の歌と踊りを披露しました。

毎年、新たな会員を迎え、修了時の「市民大学発表」を活動の一環として取り上げています。

◇安定期②(28年、29年) 活動 42 回(予定)

この期の顕著な活動は他のサークルにも働きかけて記念行事に参加したことです。高麗郡建郡1300年の歴史イベントでは現地に赴き、高麗神社の高麗文康宮司の案内と講話を受けました。



所沢市のまさに現代の動きも明日には歴史という観点で「メガソーラー所沢等エコ施設」「KADOKAWAのところざわサクラタウン構想」等に積極的な情報収集の活動を行っています。

歴史を考える上で欠かせない地理として「狭山丘陵の地形・地質」活動では所沢高校地学担当の正田先生から丘陵の各所で地形や地層の説明を受け、教室ではその微細な地質の違いを顕微鏡で確認し、現場と理論両面で理解できました。

「鎌倉街道歩き」「富士塚巡り」「狭山三十三観音巡礼」などのシリーズは今期で終わります。

■ 今後の展望

来期の計画は未定ですが、近隣を含めた現場を歩く活動の大切さとそれに伴う健康効用を考え、アウトドアの活動は今後も講話や出前講座など好評なインドアの活動とともに重視します。

平成30年は明治維新150周年を迎えますので、維新时期がらみの一層活発な活動を計画したいと考えています。今後もふるさと所沢の歴史に興味のある人が集い、活動に参加したいと思えるような「野老澤の歴史をたのしむ会」を続けたいと思います。

民話の会

■ 活動の目的と学ぶこと

所沢の民話や昔話や説話を学び、学んだ話を伝承して行きたいと考えて設立しました。

所沢の民話が、最初に市民に紹介されたのは旧『所沢市史』(昭和 32 年)でした。そこには 4 点の民話が、ついで発刊された『ふるさと所沢』に 7 点が所収されています。これら以外にも聞き取り調査で収集された話もあります。また、地元の昔話や伝説や世間話はまだまだあることでしょう。今後、収集の予定です。

民話の会が学んだ民話は 14 点となりました。現在、児童館、小学校、長生会、老人ホーム、倶楽部の文化祭等でお話会を開いています。

民話や昔話の発信はプロジェクターで画面を投影しながら、チームで語る方法を取っています。

学びの成果は、『所沢の民話由来地マップ』を作ったことです。また、私たちサークルのオリジナルソング CD『民話はみんなの宝物』を流しながら、参加者と歌い踊り、楽しい時間を持つことができます。私たちの活動が、地域に貢献しているのかなとも思っています。



特養ホーム「真和の森」



ひばり児童館



老人ホーム「桂の樹」



デイサービス「千恵の輪」



「民話の会」の女性会員

－出来る時に出来ることを－

■「民話の語り」でつながる笑顔

心がほっかり民話好きな人達が集まって、平成25年2月に「民話の会」ができました。

初めは倶楽部の文化祭で発表することが大きな目標でした。小学校や特養施設を訪問して人前で語る機会を重ねていくうちに、思いがけず「地域に貢献する」という「ところざわ倶楽部」の設立目的の1つにつながりました。

◇今年、平成29年は所沢小学校、南小学校、明峰小学校の3校の3学期の「ふるさとを知る」授業で民話を語りました。



所沢小学校



南小学校



明峰小学校

後日いただいた子供たちの感想文をいくつかご紹介します。

- ・「所沢が水に困っていた時代があったんだなあと思いました。この1時間でいろんなことがわかりました」
- ・「最初の歌と踊り(民話の会オリジナルソングと振り)、初めて知ったのですが良かったです。みなさん体に気を付けてください。4年生になってもまた来てください」
- ・「社会で昔のことを勉強していたのでわかんないところがわかりました。3年生全員が集まっていたのに、どうどうと読むのがすごいなと思いました」
- ・中には「かっぱの詫び証文」を聞いて、「かっぱがキュウリだけでなく人間のおへそも食べるとは知りませんでした！」など楽しい感想もありました。

◇民話を聞いてくださる皆さんの笑顔に私たちが励まされ、かえって元気をいただいていると感じます。サークルの仲間と公演を終えて帰るころには心は幸せ感で満たされています。

所沢市民大学修了後「ところざわ倶楽部」に入会して、興味を持ったサークルで活動していくうちに、ごく自然な形で地域に貢献していくことが生涯学習の求めるものと思います。

いやおうなしに歳は取っていきます。
「出来る時に出来ることを」と思うこの頃です。



ところざわ倶楽部文化祭 発表

歴史散策クラブ

■ はじめに

歴史散策クラブは、15期市民大学在学中に「所沢の歴史」講座を選択した仲間が、卒業後も引き続いて所沢の歴史や文化財を学びながら、村の成り立ちや魅力を再発見し、良いところを“どんどん発信していこう！”と結成したサークルで、平成21年1月に発足しました。

私たちは、毎月(7月は座学・8月は休)どこかの村や町の寺社・旧跡などを見て歩いて9年、コースは所沢を中心にしながらも次第に県内・都内近郊へと広がってきました。現在、会員は25名です。

さて、私たちは“子供のような好奇心を持って活動も歴史も楽しもう！新たな発見や出会いに遭遇したら素直に驚こう！と、みんなで活動を進めてきました。

■ 「所沢の歴史」講座での活動

所沢では遺跡の多くは狭山丘陵とその周辺や柳瀬川・東川流域などの市域南部にあり、広大な原野であった市域北部の台地にはありません。このことから人の生活が水場と密接に結びついていたことが容易に理解できます。

一方、所沢は古代から交通の要所であったことから、道をキーワードに旧町を中心とした歴史や町の発展を学んできました。

今、記憶をたどり、私たちの「初めてのコース歩き」を紹介しますと、こんな調子だったと思います。

『……古戦場跡から白旗塚遺跡に向かう。白旗塚遺跡では、地中から地表に出てきた土器の破片が畑の畔に放置されていた。耕作者には邪魔物でしかない。そっと持ち帰った小さな破片は今我が家の宝物になっている。野道を進むと砂川堀に架かる不動橋に出る。近くには石橋供養塔がある。橋が流されないよう不動橋と名付けて、これを供養したものだ。時期は4月、砂川堀の流れは清く、流域を歩くと一輪草の群生に遭遇。誰もが五感が洗われるほどの感動を覚えたに違い

ない。……』

当時、一緒に歩いた仲間は、現在7人となってしまいましたが、今は懐かしい思い出です。



発足当時のメンバー

■ サークル結成後の活動例

◇自分の目で本物を確認・納得

① 元弘の板碑



② 石片の接合例



八国山の元弘の板碑(昔は国宝)、砂川遺跡から発掘された石器類、何れも国の重要文化財です。残念ながら現物は地元所沢にはありません。

① 徳蔵寺板碑保存館で供養

② 石器類は明治大学考古学博物館で展示

◇祭り芸能を楽しむ



- ① 入間郡三芳町の車人形
- ② 国指定史跡鉢形城の北条まつり
- ③ 瑞巖寺のささら獅子舞

◇宿場を訪ねる(歴史の証言者)



- ① 粕壁宿の道標
- ② 大和田宿の鬼鹿毛の馬頭観音
- ③ 大井宿の大山石灯籠

◇陸上自衛隊朝霞駐屯地訪問

リオ五輪・50km競歩銅メダル新井選手・競泳リレー銅メダル江原選手と共に(自衛隊体育学校)



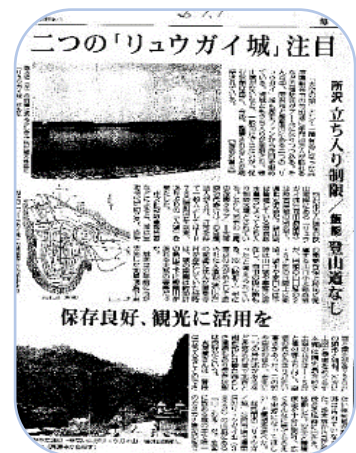
◇注目された根古屋城(リュウガイ城)址の見学

根古屋城址は、都水道局の管理下にあり、昭和53年以降、36年間一般人の立ち入りが禁止されていました。今回、関係者の協力のもとで敷地内に立ち入り、詳細にわたり見学ができました。約600年前の城址は、深い堀を作り土塁を築いた城でしたが、長い間、人の立ち入りが無く、荒らされたり、人の手が加えられることもなく、保存は良い状態でした。

歴史はいつも“ドキドキ”“ワクワク”です。一緒に入った H.T さんは『不安と期待の中で、雑木林の中に入っていくと、突然、堀や土塁が現われたのです。小さいながらも確かにそこにあったのです。』

本当に感動しました』と驚きの様子を語っていました。

見学調査の結果はところざわ倶楽部の文化祭で報告したところ、これがマスコミの目にとまり記事として掲載されました。メンバー一人ひとりの良い思い出となっています。



◇活動成果の発表と情報の発信

- ・平成21年6月7～11日 生涯学習推進センター 記念事業「所沢の歴史」写真展
- ・平成21年7月8～21日 富岡公民館「所沢の歴史・文化財」写真展
- ・平成23年5月25.30日 久米川地区の歴史を題材に「歴史ウォークラリー」開催
- ・平成23年9月25日～10月2日いきものふれあいの里センター「所沢の歴史・文化財」写真展
- ・平成23年9月27.30日 吾妻地区の歴史を題材に「歴史探索ウォークラリー大会」
- ・平成24年11月14日 第6期ところざわ倶楽部総会で活動報告「逃水の里・水野新田」
- ・平成26年5月30日 第3回ところざわ倶楽部文化祭で活動報告「根古屋城址の見学調査」
- ・定例会はブログに掲載、毎月更新しています。

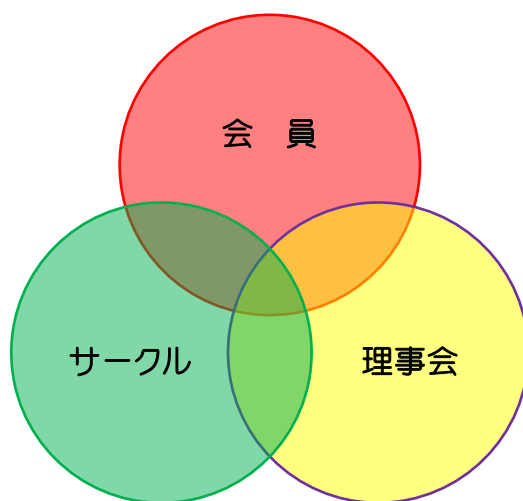
■「歴史散策クラブ」もう一つの意義

歩くことは人間回復の大切なツールだと思ふことがあります。

老いが始まると歩くことにも無関心になってきます。自分の足で歩くことで、五感は活性化され風や匂い、光などを敏感に感じるができます。四季折々の自然や風景は会話を弾ませてくれます。川沿いや神社の境内を彩る花々は心身を癒してくれます。

そして道端の石仏に頭を下げると元気がいただけるような気がするのです。

生涯学習の理念のもと
豊かな市民社会の実現をめざし
地域に貢献する



ところざわ倶楽部創立 10 周年記念誌(2017 年 10 月 31 日発行)

発 行:ところざわ倶楽部 <http://www.tokorozawaclub.com/> 会長 稲村洋二

編 集:10 周年記念誌実行委員会:内田滋男 清水仁一 玉上佳彦 中島峯生 中原幹男

表紙写真:柳瀬写真クラブ 挿入画:志村喜八 中村昌彦 山本苗子

印 刷:東京カラー印刷